

大正三年一月二十一日

提出者 島田 三郎

賛成者 岩崎 安次郎

外八十六人

自治権蹂躪ニ關スル質問主意書

一 昨年十月二十八日横濱市會ハ時代ノ要求ニ依リ市理事者ノ提出ニ係ル選舉

區條例廢止並選舉分會設置ノ二案ヲ全會一致ヲ以テ可決セリ然ルニ十一月

八日大島神奈川縣知事カ何等ノ理由ナク右決議ニ對シ不許可ノ指令ヲ下シタルハ市會ノ決議ヲ侮辱シ自治制ノ精神ヲ破壊セルモノト認ム政府ノ所見如何

二 大島神奈川縣知事カ右ノ指令ヲ下スニ至リタルハ原内務大臣ノ關涉ニ出テアリト認ムル事實アリ政府ハ之ニ關シ如何ナル處置ヲ爲スカ

三 本月二十八日施行セラル横濱市會議員選舉ニ關シ警察官吏ハ不當ノ關涉ヲ爲シ選舉準備ノ自由ヲ妨害スル事實アリ政府ハ之ニ關シ如何ナル處置ヲ爲スカ右及質問候也

政府ノ新領土經營ニ對スル主義方針及臺灣陰謀事件ノ責任並其ノ善後策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據り提出候也

大正三年一月二十一日

提出者 小林 勝民

賛成者 金子 圭介

外六十二人

政府ノ新領土經營ニ對スル主義方針及臺灣陰謀事件ノ責任並其ノ善

後策ニ關スル質問主意書

一 政府ノ新領土經營ニ對スル主義及方針何如

二 臺灣陰謀事件ノ責任及其ノ善後策何如

右及質問候也

自治権蹂躪ニ關スル質問主意書
ノ善後策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據り提出候也

大正三年一月二十八日

提出者 早速 整爾

賛成者 尾崎 行雄

外二十九人

自治権蹂躪ニ關スル質問主意書

一 大正二年五月十三日廣島市會ハ適法ニ會議ヲ開キテ豫テ内務大臣ヨリ命令シタル廣島市長候補者ノ選舉推薦ヲ行ヒ次テ之ヲ内務大臣ニ進達シタリ然ルニ内務大臣ハ上奏裁可ヲ請フノ子續ヲ爲サス數十日ヲ經過シテ更ニ再選舉ヲ行ヘシトノ命令ヲ下シ廣島市會ハ決議ヲ蹂躪シ去リタリ是レ職權ノ濫用ニ非サルカ

二 市制第九十條ニ「市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ

指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ」トアルヲ以テ此ノ規定ニ依リ内務大臣ハ前項ノ再選舉ヲ行ヘキ指揮ヲ爲シタリト稱スレ

トモ當日ノ市長候補者選舉ニ關シテハ何等權限ヲ越エタルコトナク又毫モ違法ノ點アルヲ認メ斯然ルニ内務大臣ハ只漫然不適法ノ選舉ヲ破却シ去リタリ是レ果シ理由ヲ示スコトナク廣島市會カ行ヒタル適法ノ選舉ヲ命シテ別ニ其ノ

テ自治権蹂躪ニ非サルカ

四

廣島市會カ當日ノ會議ヲ進行シツツアルニ際シ臨場セシ市長代理カ突如「閉會シマス」ト私語シタルノ事實アレトモ此ノ會議場ニ徹底シタル宣言ニ非ス當時ノ會議錄並速記録ハ明ニ之ヲ證スヘシ而モ内務大臣ハ此ノ市長代理ノ放言ヲ

有效ナリト認メタルガ

市制第五十七條ニ「議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ閉閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス」トアリ即チ其ノ日ノ會議ヲ閉閉スルハ市會議長ノ權限ニ屬スルカ故ニ會議ノ進行中ニ於テハ市吏員ハ置ニ閉會ヲ命スルノ權能ヲ有セス況ヤ前項市長代理ノ所謂宣言ハ實際私語ニ過キス放言ニ外ナラサルニ於テオヤ内務大臣ハ尙此ノ市長代理ノ妄爲ヲ有效ナリト認メタルカ

五 若果シテ前項市長代理ノ妄爲ヲ有效ナリト認メタルモノトセハ全然當日ノ會議ヲ無効トスヘキ苦ナルカ故ニ選舉ノ行ハレタル事實ヲ認ムヘキ理由ナシ然ルニ内務大臣ハ當日ノ會議ハ之ヲ認ムルト同時ニ其ノ選舉ノ行ハレタル事實ヲモ之ヲ認メ但其ノ選舉ヲ不適法ナリトシテ再選舉ヲ命シタリ乃チ其ノ不適法ナリト認シタル事由ハ何レニ在リヤ

右及質問候也

内務大臣ノ責任ニ關スル質問主意書

右成規ニ據り提出候也

大正三年二月十六日

提出者 石橋 爲之助 才賀 藤吉

賛成者 岩下 清周

外二十九人

内務大臣ノ責任ニ關スル質問主意書

一 原内務大臣カ自邸ニ備ヘル壯士ハ同邸ノ來訪者ヲ威嚇シ又新聞記者ニ危害ヲ加ヘタリ之ニ對スル内務大臣ノ辯明ヲ求ム

一 帝都ノ安寧秩序ヲ保持スヘキ責任アル原内務大臣ハ其ノ警察力ニ信頼スル能ハシテ自邸ノ保護ヲ壯士ニ託スルカ如キ果シテ其ノ責任ヲ解スルモノナリヤ

一此ノ如キ無能ノ警察力ヲ以テ人身ノ安全ヲ保障シ得ヘシト爲スカ

右及質問候也

海軍收賄問題ニ關スル質問主意書

右成規ニ據り提出候也

大正三年二月六日

提出者 藏原 惟郭

賛成者 岩崎 安次郎

外八十九人

海軍收賄問題ニ關スル質問主意書
一 海軍省ヨリ軍艦兵器及材料ハ總テ本省ヨリ直ニ外國會社ニ注文シテ本邦商人ノ手ヲ經スト齊藤海相カニ二十三日ノ豫算委員總會ニ於テ「言明シタル所ナリ然ラハ此ノ直接注文ヲ決定スル責任者ハ山本首相、齊藤海相、伊集院艦政本部長並吳造兵廠長ノ四人アルヘシ如何

二 若此度ノ收賄事件ハ「リヒテル」事件ニ關係シ獨逸法廷裁判宣告ニ於テ直接關係者ハ藤井、岩崎兩少將ナリト雖收賄ノ疑惑ハ今ヤ懸テ海軍省最高將官タル右四人ノ上ニ集中セラルハ實ニ帝國海軍ノ最大遺憾ナリ然ラハ諸公ハ如何ニシテ自己等ノ潔白ナルコトヲ證明シテ天下ヲシテ充分ノ満足ト同情ヲ表セシメムトスル乎

三 政府ハ查問委員ヲ設ケタルモ委員ハ其ノ委員ヲ任命シタル足下等ヲ查問スルノ權能ヲ有セス然ラハ政府ハ單ニ「リヒテル」事件ノミヲ查問シテ此ノ問題ノ根本

四 解決ヲ爲ス意思ヲ有セサル乎如何
此ノ場合政府當局者ノ取ルヘキ道ハ「途アル而已」即チ此ノ疑惑ノ被告者ト爲リタルノ罪ヲ謝シ責任ヲ負フテ辭表ヲ「陛下ニ奉呈シテ謹テ大命ヲ待チ事件ノ解決ヲ待ツヨリ外ニハ立憲國大臣トシテノ立場ハ絶無ナリト本員等ハ思惟斯政府當局ノ所見及其ノ覺悟ハ如何

五 議會ノ協賛ヲ經サルニ拘ラス金剛艦ヲ「ヴィッカース」會社ニ注文セリ「ヴィッカース」會社ニ限り入札セシメタルヤ其ノ理由如何

六 明治四十三年金剛艦ヲ「アーム、ストロング」會社ニ注文セムトスル爲西園寺侯及山本伯ハ間接又ハ直接ニ係ラス時ノ首相桂公ニ依頼スル所ナカリシヤ否「アーム、ストロング」會社及川崎造船所ノ代表者ハ相携テ桂公ニ向テ軍艦注文ハ已ニ西園寺、山本トノ約束済ナルヲ以テ議會ニ通過スル様盡力アリタシト強制ノ態度ヲ示シタリトノ說アリ當時ノ内情及内約ノ有無等如何

七 海軍省カ川崎又ハ其ノ他ノ内國造船所ニ造艦ヲ請負セシムルニ當リ百五十萬圓ヲ前渡スルノ理由ハ一切ノ請負事業ノ慣例ニ反スルヤニ思惟スルモノナルカ其ノ理由ハ如何

八 我國造船所ハ設立以來年月長カラス從テ技術ノ經驗熟練充分ナラス品質ニ於テ劣悪價格ニ於テ高價ニ失ス然ルニ國防ノ由テ繫ル軍艦ヲ斯ノ如キ會社ニ請負ハシムルハ實ニ危險至極ノ事ニアラスヤ政府ノ所見如何

九 昨年十一、二月頃吳造兵廠ノ材料ヲ竊取セラレタル事件ハ如何
十 將校任免黜陟上ニ於テ朋黨情實等ノ私情ニ制セラレ偏頗ノ處置鮮ナシトセズトノ不平批難ノ聲海軍部内ニ噂セラルハ果シテ如何ナル理由ニ在ル乎

十一 軍艦金剛ノ製造ニ關シ二井物産會社ハ百三十萬圓室蘭製鋼所ハ六十萬

圓ヲ手數料トシテ收入シ其ノ大部分ヲ有力ナル三四ノ海軍將官ニ割戻シタリトノ說アリ事實如何
十一 「シーメンス」會社ノ「ヘルマン」カ我カ海軍大臣ニ言明セル所ト裁判ノ判決文ノ主意ニ願ミレハ「シーメンス」會社ノ如キ不信用ニシテ危險ナル會社トノ關係ヲ今回斷然謝絶シ將來海軍ノ注文ハ勿論從來取結フ所ノ注文ハ一切破約ヲ決行スルハ當然ノ義務ト本員ハ信スルモノナルカ之ニ對スル政府ノ所見如何

十三 「ブーレー」ハ屢々山本首相ヲ訪問シタリト傳聞ス果シテ然ルカ若然リトセハ山本首相ハ面會シタリヤ右及質問候也

海軍收賄ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正三年二月十二日

提出者 黒須 龍太郎

賛成者 岩崎 安次郎

外九十八人

海軍收賄ニ關スル質問主意書

一 去十日ノ内閣不信任決議案ノ議事ニ際シ議員島田三郎氏ノ引用セシ「ブーレー」恐喝取財事件ノ調書ハ我カ政府カ海軍收賄事件ノ調査ヲ怠リ若ハ之ヲ

隠蔽セシヤニ断然スルニ重大ノ關係アリ而シテ該調査ハ警視廳ノ作成ニ係ルコトヲ推定シ得ヘキコト島田氏ノ斷言セル所ナルノミナラス警視廳ハ當日總理大臣、海軍大臣、内務大臣及司法大臣ニ該書類ヲ送付セラズ確聞ス政府ハ之ヲ認ムルヤ否ヤ

二 山本總理大臣ハ右議事ニ際シ海軍收賄ノ嫌疑ハ目下進行シツタル司法處分及海軍查問委員會ノ進捲セル結果自カラ明白トナルヘキヲ信スト言ヘルモ司法處分ノ如キ之カ確定迄ニハ往々長日月ヲ要スルコトアリ本件ニシテ斯ノ如クムハ名ラ事件ノ調査ニ託シ責任ヲ晦マスノ疑アリ政府ハ本件司法處分及海軍查問委員會ノ查定ハ何時終了スルノ見込ナルヤ少クモ本月中ニ進捲ノ結果ヲ議會ニ報告シ得ル見込ヲ有スルヤ否ヤ

三 海軍ニ對スル國民ノ疑惑ハ實ニ二十年間我カ海軍部内ニ至大ノ勢力ヲ振フ海軍大將伯爵山本權兵衛等ノ私曲ヲ中心トスルニ在リ「シーメンス、シュッケル」會社贈賄事件ノ如キ偶多年國民ノ心裡ニ潜メル深大ノ疑惑ニ爆發ノ機會ヲ供セルニ過キス此ノ事タル政府亦之ヲ熟知セルモノト信ス然モ政府ハ尙「シーメンス、シュッケル」會社事件ノ司法處分及海軍查問委員會ノ查定ニ依リ斯ル國民ノ疑惑ヲ解クニ足ルト思料スルヤ

四 山本總理大臣ハ昨年議會ニ於テ憲政運用上政黨ヲ重ムシ又國民ノ輿論ヲ尊重スルノ最必要ナルコトヲ明言セリ然ルニ今ヤ忠良ナル國民ハ舉テ山本伯ヲ疑惑シ處決ヲ求ムルコト苟モ常識アルモノノ直ニ認識シ得ル所ナリ然モ今日處決セサルハ忠良ナル國民ノ輿論ヨリモ政友會ナル政黨ニ重キヲ置クヲ我ガ憲政ノ運用

上最必要ナリトスルニアルカ否ヤ

五
若政府ニシテ國民輿論ノ所在ヲ疑フヘシトセハ政府ハ衆議院ヲ解散シ國論ノ所在ヲ確ムルノ方針ヲ有セサルヤ否ヤ

首相ノ責任三關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

提出者 小山 谷藏

贊成者 岩下清周
外三十八人

首相ノ責任ニ關スル質問主意書

「シーメンス」事件ノ突發以來司法官憲ノ活動ハ遂ニ帝國海軍一部ノ腐敗ヲ暴露スルニ至レリ而シテ其ノ責任ハ久シク帝國海軍ノ實權ヲ掌握シタル首相山本伯ニアリトナシ堂々之ヲ公言シテ憚ラサルモノアルニ至レリ事ノ眞偽ハ本員ノ知ル處ニアラスト雖事態ヲシテ茲ニ至ラシメタルハ首相山本伯不徳ノ責ナリト思惟ス内閣ノ所見如何

一
若之ヲ以テ首相不德ノ責ニ歸スヘシトセハ首相ハ一日ト雖其ノ任ニ居ルハ恐懼
措ク能ハサル所ナリト信ス首相ノ所信如何

卷之三

議事進行二關スル件

○議長(大岡育造君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、議事進行ニ關スル件ニ付キ發言ヲ求
メラレタル方ガアリマスカラ、先づ是ヨリ許シマス——齋藤隆夫君

〔拍手起〕

○齊藤隆夫君 諸君、本員ハ議事ノ進行ニ關スル最モ重要ナル事件ニ付キマシテ、此
議論長ニ對シテ善意ノ質問ヲ爲スノ必要ヲ感シタノアリマス、過日來此議場ニ現ハレ

タル出來事二付

堺へナイコトが澤山アリマス、併ナガラ是等ノ事柄ハ一二社會ノ公斷ニ譲テ置キマスル、本圖ハ亥ニ狀士スベカラダレトコロニ一事アヤレニデアノマヌスノヘ外ニ事ナハザドイ

ニヤセヌガ、此衆議院ニ於テ法律違反ノ決議ガアル、憲法違反ノ決議ガアルコト、アリマ

ス、苟モ國家最高ノ立法機關ニ於テ、法律協賛ノ職責ヲ有シテ居リマストコロノ我が衆

議院ガ、自ラ法律ヲ破り自ラ憲法ヲ犯スト云フガ如キコトガアリマシタナラバ、是ハ實ニ

由ケシキ大事ニアリマス、而シテ事此ニ至リタル原因ハ、當時議場ノ形勢が之ヲ促シタ
ル也。用達ガサニマニシカゲ、併ニ本員ノ混ゾロコニ裁リマベレ、比議場ヲ統轄ハノ威貢

ニノ木連ニサヘモテカ例ミ木員ノ見ハニコニ係リスルル、此議場ニ總轉スル問題ヲ
アフ有シテ居ルトコロノ議長ガ、口レノ職責ヲ適當ニ解釋セズ、適當ニ之ヲ行使セザリシ
ニ基因スルモノアルト、斯様ニ本員ハ斷言致スノデアリマス、帝國議會ノ職權ハ憲法

及法律ニ規定シテアリマスルニ依テ、衆議院ハ如何ニ活動スト雖モ此權限ヲ越越スルコトハ出來ナイノデアリマス、若シ一步タリトモ之ヲ逾越致シマシタナラバ、其行動ハ悉ク

無效デアル、衆議院ガ一時ノ感情ニ駆ラレ、一時ノ勢ニ制セラレテ、權限ヲ越エシ無
效ノ行動ニ進マントスル場合ニ於テハ、議長タルモノハ最モ公平ニ最モ冷靜ニ、自己ノノ
權能ヲ行使シテ之ヲ抑制シ、其過ラバ未然ニ防グト云フコトハ議長ノ有スルトコロノ一
大職責ニアリマス、吾々が尊敬スルトコロノ大岡議長ハ、果シテ此職責ヲハ十分ニ盡シ
君ヨリ提出セラレタトコロノ彼ノ緊急動議ニアリマス、此動議ノ趣旨ハ諸君ノ御承知ノ
如ク、營業稅廢止法外幾件及地租條例改正法律案ノ議事ノ議了スルマデハ、之ニ
關係セザルトコロノ一切ノ動議及質問ヲ許サズト云フノ意味ニアリマス、此動議ハ法律
違反デアル、從ツテ無効デアルト云フコトニ付キマシテハ、確カ花井君ヨリモ御講論ノアフ
タコトニアリマスルガ、私モ無論同論者ノ一人ニアリマス、議員ノ動機權及質問權ハ、
議院法ナル國法ニ依テ規定セラレテアルノデアル、吾々ハ此國法ニ據テ動議權及質問
權ヲ有シテ居ルノデアリマスカラシテ、此權利ハ議院法ヲ改正スルニアラザル以上ハ、何
人ト雖モ之ヲ剝奪若クハ制限ヲスルコトハ出來ナインデアリマス、然ルニ伊藤君ノ動議
ハ、此議院ノ決議ヲ以テ一時タリトセ之ヲ制限セントスルノ趣意ゴザイマスカラシテ、
其動議が議院法ニ違反シテ居ルト云フコトニ付テハ、何人ト雖モ争フコトハ出來ナイン
デアリマス、ソレカラシテ第一ハ、前回即チ二十一日ノ議場ニ於テ、同ジク政友會ノ院
内總務タル奥繁三郎君ヨリ提出セラレクトコロノ緊急動議ニアリマス、此動議ハ當時
藏原惟郭君ガ朗讀致シマシタル、彼ノ信書ヲ差出人ヲ明示スベシト云フコトノ動議デア
リマス、我憲法第二十六條ニ據リマスルト云フ「日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除
ク外信書ノ祕密ヲ侵サル、コトナシ」斯様ニ規定シテアルノデアル、然ルニ(「大誤解」ト
呼フ者アリ)誤解デアルト曰ハル、人ハ退イテ憲法ヲ御研究ニナッタナラバ、憲法ノ前ニ
呼フ者アリ)誤解デアルト曰ハル、人ハ退イテ憲法ヲ御研究ニナッタナラバ、憲法ノ前ニ
於テ赤面セラルルデラウト思ヒマス(「足下ハ再ニ研究ヲ要ス」ト呼フ者アリ)
○議長(大岡育造君) 静肅ニ願ヒマス

○齊藤隆夫君 斯ノ如ク信書ノ祕密ヲ侵スコトハ、特ニ法律ニ規定サレテアル場合ニ
限ルノデアッテ、此以外ニ於テハ如何ナル手段ニ依テモ之ヲ侵スコトハ出來ナインデアル、
然ルニ奥君ノ發議ハ院議ヲ以テ——法律ノ效力ヲ有セザルトコロノ院議ヲ以テ之ヲ侵サ
ントスル動議アルカラ、是ハ憲法違反デアルト云フコトニ付テハ、爭フコトハ出來ナインデ
アリマス(「ノウ」「誤解ケタ」ト呼フ者アリ)以上ノ一箇ノ動議ハ一ハ法律違反、一
ハ憲法違反デアル、斯ル動議が出来マシタ場合ニ於テハ、議長ハ法律規則が與ヘテ居ルト
コロノ職權ヲ適當ニ使用シテ、斯ル動議ハ決シテ議場ニ詰ラルベキモノデハナイノニアリマ
ス、然ルニ大岡議長ガ之ヲ議場ニ詰ラレタノデアルカラ、此議場ハ多數ヲ以テ之ヲ可決
シテ、形ニ上ニ於テハ是ガ院議トナツテ現レテ居ルノデアル、此院議ノ結果トシテ縱令一

時タリトモ吾ニ議員ガ議院法ニ於テ有シテ居ルトコロノ動議權及質問權ヲ停止シ、或ハ此院議ニ背イタト云フノ理由ヲ以テ、終ニ懲罰委員ニ付スルト云フが如キ結果ヲ來シタノアル、吾ミノ見ルトコロニ依リマスルト云フト、斯ル法律及憲法ニ違背セルトコロノ動議が出タ場合ニ於テハ、議長ハ決シテ之ヲ院議ニ詰ルベキモノデハナイ、若シ斯ウ云フコトヲ致シマシタナラバ、大岡議長ノ如ク何デモ此議場ニ現レタルトコロノ動議ニ付テハ、之ヲ院議ニ詰ルト云フコトノ手段ヲ執ラレタナラバ、ドウナルノアリマス、例ヘバ政友會ノ諸君ガ反對黨ノ議員全部ニ付テ、言論ノ自由ヲ制限スルト云フ動議ヲ出サレタナラバ如何デアル（此時發言スル者アリ）或ハ反對黨ノ議員ハ法律案建議案其他一切ノ議案ヲ提出スベカラズトノ動議ヲ出サレタナラバドウナルモアリマス、大岡議長ハ之ヲ院議ニ詰ハレルノアリマスカ、若シ詰ハレルト云フノナラバ本員ハ敢テ言フコトハゴザリマセメガ、若シ詰ハレスト云フノナラバ事ニ大小輕重ノ區別ハアリト雖モ、法律及憲法ニ違反ヲスルト云フ點ニ至シテ同ジコトアリマス、大岡議長ハ過日吾ニ向シテ斯ウ云フコトヲ言ハレタコトガアル、或ル議員が質問書ヲ提出シタ、其質問書ハ形式ハ十分具備シテ居ルケレドモガ、其内容ニ至シテハ山本首相ノ一身ニ關スル事柄ヲ含シテ居ルカラシテ、是ハ質問トシテ取次グベキモノナイト云フノ理由ヲ以テ、其質問ヲ拒絶セラレタノデアル、若シ議長ニ於テ議案ノ内容ヲ審査シテ、適法不適法ヲ取捨スルトコロノ權能ヲ行使セラル、ナラバ、單リ質問ニ限ラズ此議場ニ現ハル、トコロノ動議ニ付テモ、此權能ヲ行使セラレネバナラヌノアル、然ルニ何ガ故ニ斯ル違法ナル——違憲ナルトコロノ動議ヲバ此議場ニ詰ラレタノアルカ、之ヲ私ハ大岡議長ニ質サントスルノアリマス、本期議會ニ於キマシテハ是ヨリマダ此議場ニ風波ヲ起スベキトコロノ議案が出ルカモ分ラヌノアリマス、斯ル場合ニ於キマシテ、議長ハ議長ノ權能ヲ法規ニ依テ解釋シ、之ヲ適當議場ニ於テ議案ノ内容ニ至シテハ是ヨリマダ此議場ニ風波ヲ起スベキトコロノ議案が出ルカモ分ラヌトヲ、議場ニ詰ラレタト云フコトニ付アハ、本員ハ大岡議長ノ爲メニ甚ダ惜ム事柄ト思

○議長（大岡育造君） 痞藤隆夫君ガ、議長ノ權力ヲ成ルベク強クスルヤウニト云フ趣意ノ御演説ハ、誠ニ此際必要ナル御趣意ト存シマスル、併ナガラ議院ヲ決議致シタル其事ニ付テ、私一人ノ決定ト同シヤウニ見ラレルダケハ少シク其當ラ得ナイコトデアラウト考ヘマス、而シテ又既ニ決シタル以上ニハ、議員多數ノ決定デアレバ本院ノ決定デアル、此院全體ノ所有物デアルノアリマス、議長一人ノ敢テ其事ニ當ルベキデハナイト思ヒマス、ケレドモ御尋デアルニ依テ私ノ解釋スルトコロヲ申シマスレバ、如何ニモ憲法ニ於テ、先日伊藤大八君ノ提出セラレタルガ如キ動議ヲ提出スベシト云フガ如キコトハ書イテナイ、併ナガラ憲法議院法ニ無イコトデモ、議事ノ進行ニ必要ナリト認メラレタル場合ニ於テハ、議院が定ムレバ之ヲ行フコトが出來ル例モアリマス（「ノウ／＼」ト呼フ者アリ）現ニ討論終結ノ動議ト云フモノハ憲法ニモナイ、討論ノ進行ヲ途中ニ於テ

遮ルト云フガ如キコトハ憲法ニハ書イテナイ、議院法ニモ書イテハナイ、併ナガラ徒ニ議事ノ進行ヲ延長シテ遂ニ進捗ラ妨ゲル處アル場合ニ於テハ、之ヲ止ムルニアラザレハ限コトヲ致シマシタナラバ、大岡議長ノ如ク何デモ此議場ニ現レタルトコロノ動議ト云フモノ出シテ、此妨害的行動ヲ抑ヘルト云フコトバ如何デアル（此時發言スル者アリ）或ハ反對黨ノ議員ハ法律案建議案其他一切ノ議案ヲ提出スベカラズトノ動議ヲ出サレタナラバドウナルノアリマス（「ヒヤ／＼」ト呼フ者アリ）是之ヲ院議ニ詰ハレルト云フノナラバ是ナシテ、過日ノ如ク盛ニ種々ナ事リマセメガ、若シ詰ハレスト云フノナラバ事ニ大小輕重ノ區別ハアリト雖モ、法律及憲法ニ違反ヲスルト云フ點ニ至シテ同ジコトアリマス、大岡議長ハ過日吾ニ向シテ斯ウ云フコトヲ言ハレタコトガアル、或ル議員が質問書ヲ提出シタ、其質問書ハ形式ハ十分具備シテ居ルケレドモガ、其内容ニ至シテハ山本首相ノ一身ニ關スル事柄ヲ含シテ居ルカラシテ、是ハ質問トシテ取次グベキモノナイト云フノ理由ヲ以テ、其質問ヲ拒絶セラレタノデアリ、若シ議長ニ於テ議案ノ内容ヲ審査シテ、適法不適法ヲ取捨スルトコロノ權能ヲ行使セラル、ナラバ、單リ質問ニ限ラズ此議場ニ現ハル、トコロノ動議ニ付テモ、此權能ヲ行使セラレネバナラヌノアル、然ルニ何ガ故ニ斯ル違法ナル——違憲ナルトコロノ動議ヲバ此議場ニ詰ラレタノアルカ、之ヲ私ハ大岡議長ニ質サントスルノアリマス、本期議會ニ於キマシテハ是ヨリマダ此議場ニ風波ヲ起スベキトコロノ議案が出ルカモ分ラヌノアリマス、斯ル場合ニ於キマシテ、議長ハ議長ノ權能ヲ法規ニ依テ解釋シ、之ヲ適當議場ニ於テ議案ノ内容ニ至シテハ是ヨリマダ此議場ニ風波ヲ起スベキトコロノ議案が出ルカモ分ラヌトヲ、議場ニ詰ラレタト云フコトニ付アハ、本員ハ大岡議長ノ爲メニ甚ダ惜ム事柄ト思ヒマス、ケレドモ御尋デアルニ依テ私ノ解釋スルトコロヲ申シマスレバ、如何ニモ憲法ニ於テ、先日伊藤大八君ノ提出セラレタルガ如キ動議ヲ提出スベシト云フガ如キコトハ書イテナイ、併ナガラ憲法議院法ニ無イコトデモ、議事ノ進行ニ必要ナリト認メラレタル場合ニ於テハ、議院が定ムレバ之ヲ行フコトが出來ル例モアリマス（「ノウ／＼」ト呼フ者アリ）現ニ討論終結ノ動議ト云フモノハ憲法ニモナイ、討論ノ進行ヲ途中ニ於テ

レタニ付テ彼是申スノデハアリマセヌケレドモ、既ニ本議會ニ於テ此質問案が現ハレタノハ二十餘件ニナシテ居ル、サウシテ最早餘ストコロノ此議會ノ開會日數ハ僅カニナシテ居ル、此先例ニ依リマスト、丁度長谷場純孝君ノ議長タリシトキ等ノ先例ニ依リマスルト、此質問日ヲ變更シタル場合ニハ、議長ハ議院ニ詔ウテ其次ノ開會日ニ許スト云フコトニナシテ居ル、斯ウ云フコトニデモシナケレバ到底此澤山ノ質問ヲ完了セシムル譯ニハ行カナイ、質問ハ決シテ質問其モノデ済ムモノデハナクシテ、答辯ノ如何ニ依テハ更ニ或ハ建議案トナリ、若クハ更ニ適當ナル手段ヲ其提出者ニ於テ執ラナケレバナラヌコトデアルニ、殊ニ此十九日ノ如キハ故ナク休マレタガ、其裏面ニハ先日議長ノ御諭シニ依レバ、議長ハ非常ノ好意ノ含マレタコトモアリマシタ、吾々議員ノ慰安ヲ圖ラレタト云フ立派ナ思召モアルケレドモ、免ニモ角ニモ其日ハ休マレタ、是等ハ何卒前ノ先例ヲ趁ハレテ、適當ノ方法ヲ講ゼラレンコトヲ本願ハ希望シマス、ソレカラ次ニ曩ニ阪本彌一郎君カラ質問サレタ事項ノ中ニ、先日此院外ノ嫌疑者ニ付テ警官が勝手ニ神聖ナル議場ノ一室ニ——議院ノ一室ニ嫌疑者ヲ監禁シタト云フ事實ハ確カニ曰著モアルノアル、之ニ付テ阪本氏ヨリ質問ガアリマシタケレドモ、議長何等之ニ付テ答辯ヲ與ヘラレテ居ラナイ、是ハドウ云フ御考デアルカ、又何等カ適當ナル處置ヲ執ツタノアルカドウカト云フコト同ロマス

○議長(大岡育造君) 地租條例中改正法律案ニ議事ノ際、第一讀會ノ際ニ修正ノ討論ヲ許シタノガ不當アルト云フ御咎メアル、若シ修正ノ動議ヲ許シタコトガアレバ御咎メモ或ハ適當アルカト思ヒマスガ、此當日ニ於テハ左様ナコトハナカッタノデアリマス、或ハ斯ウ云フコトヲ以テ右ノ如ク御解釋ニナシタノデハアリマセヌカ、第一讀會ニ於テ之ヲ私ハ——一讀會ニ付スベキ否ヤヲ決スルガ爲メニ賛否ノ討論ヲスルノデアリマス、即チ委員會ニ付シタノデアリマスカラ、委員長ハ修正シテ一讀會ニ付スベシト云フ意見書ヲ出サレタ、之ニ少數意見が附イテ居ル、此意見ノ報告が済シテ後ニ討論ニ移ルモノニアリマスカラ、自然修正意見ヲ持ツテ居ル人ハ、其意味ヲ以テ説明スルコトハアシノデアリマス、ケレドモ此場合ニ修正ヲ提出スルコトハ委員ニ付託シタル多數及少數意見ノ外ハ許サヌ、即チ町田忠治君ニ對シテハ別ニ開イタ一讀會ニ於テ其説明ヲセラル、コトヲ許シタ、横尾輝吉君ハ尙此機會ニ一讀會ニ於テ一讀會ノ如キコトヲ屢々言ハレタルガ故ニ、確カ私ハ二回程モ注意ヲ與ヘタノデアリマス、敢テ規則ヲ私か無視シテ此議場ヲ粗末ニ計ラウタコトハナイ積リデゴザイマス、ソレカラ何故ニ質問ノ日ヲ變更シテ此間ニ法律ノ議事ヲシタカト云フ御尋ニアリマス、何故ニ十七日ノ質問日ヲ勝手ニ變更シナガラ其儘ニナシ置ケヤト、トウモ其當日ニモ豫メ宣告致シマシタル通り、今日ハ質問ノ日デアリマスケレドモ、營業稅外數件ノ重大問題ノ討議繼續デアリマスカラ、今日開キマスルト注意ヲ豫メ申シテ置イタノデアル、尙併ナカラ唯今ノ御説明ニ依テ見ルト、質問日ノ代リニ更ニ一日ヲ設ケテ之ヲ救濟スル途ヲ講ゼヌカト云フコトデアルヤウデアリマス、ソレハ別デス、其事ニ付キマシテハ前例モアリマス、設ケタ例モアリカヘ設ケヌ例モアリマス、議長

ノ考デハ本年ノ議會ノ如ク非常ニ重大ナル案件ノ繼續連發シタル時ニ於テハ出來ベク融通ハ致シマスケレドモ、ヨリ多ク本會ヲ開クト云フコトモ尙考ヘネバナラスト思ウテ居ニナシテ居ル、斯ウ云フコトニデモシナケレバ到底此澤山ノ質問ヲ完了セシムル譯ニハ行カナイ、質問ハ決シテ質問其モノデ済ムモノデハナクシテ、答辯ノ如何ニ依テハ更ニ或ハ建議案トナリ、若クハ更ニ適當ナル手段ヲ其提出者ニ於テ執ラナケレバナラヌコトデアルニ、殊ニ此十九日ノ如キハ故ナク休マレタガ、其裏面ニハ先日議長ノ御諭シニ依レバ、議長ハ非常ノ好意ノ含マレタコトモアリマシタ、吾々議員ノ慰安ヲ圖ラレタト云フ立派ナ思召モアルケレドモ、免ニモ角ニモ其日ハ休マレタ、是等ハ何卒前ノ先例ヲ趁ハレテ、適當ノ方法ヲ講ゼラレンコトヲ本願ハ希望シマス、ソレカラ次ニ曩ニ阪本彌一郎君カラ質問サレタ事項ノ中ニ、先日此院外ノ嫌疑者ニ付テ警官が勝手ニ神聖ナル議場ノ一室ニ——議院ノ一室ニ嫌疑者ヲ監禁シタト云フ事實ハ確カニ曰著モアルノアル、之ニ付テ阪本氏ヨリ質問ガアリマシタケレドモ、議長何等之ニ付テ答辯ヲ與ヘラレテ居ラナイ、是ハドウ云フ御考デアルカ、又何等カ適當ナル處置ヲ執ツタノアルカドウカト云フコト同ロマス——川原茂輔君

○川原茂輔君 議事ノ進行ニ付テ一言致シタノデアリマス、前會ニ於テ藏原君ヲ懲罰委員ニ付シマシテ、其懲罰委員ノ諸君が御討論ノ結果、決定案が出來テ居ルサウデス、偶々犯罪者ト認ムベキ者ヲソニ暫ク伴レテ來タコトハアルサウデス、小使部屋マデハ議院ノ一室ニハナイカトハ私申兼ネスケレドモ、嚴格過ギテ御答ニ苦ム次第ニアリマス——川原茂輔君

○議長(大岡育造君) 御異議ガナイモノト認メマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)懲罰委員長岩崎總十郎君
(拍手起ル)

○法學博士花井卓藏君 議長——議長

○議長(大岡育造君) 唯今、暫ク御待チ下サイ、此報告ニ關シテハ祕密會トスベキモノト認メマス、依テ祕密會ヲ宣告致シマス——藏原惟郭君ノ退場ヲ求メマス

(藏原惟郭君「退場ヲ求メルデスカラ宣シウゴザイマス」ト呼フ)

(午後一時四十九分祕密會ニ移ル)

(午後四時一分祕密會終リ休憩)

○議長(大岡育造君) 休憩前ニ引續イテ開會致シマス、祕密會ノ結果ヲ報告致シマス、祕密會ニ於テハ討論ノ末、多數ヲ以テ委員長報告通りニ可決致シマシタ、其全文ハ書記官長ヲ以テ御報告致シマス
(林田書記官長朗讀)

衆議院議員藏原惟郭君ハ大正三年二月二十一日ノ本會議ニ於テ政府ニ對スル質問演說中引證シテ在官者某數名ノ收賄ニ關スル嫌疑事實ヲ指摘セル一信書ヲ朗讀シタリ議院ハ其内容ノ容易ナラサルヲ認メ該信書ノ信否ヲ判スル上ニ於テ發信者ノ氏名宛名及年月日ノ發表ヲ必要ト爲シ院議ヲ以テ之ヲ命令シタリ然ルニ同君ハ峻拒シテ之ニ應セス右ハ衆議院規則第二百一條ノ「議院ノ命令ニ抵抗シ」トアルニ該當ス依テ同君ヲ議院法第九十六條ニ照シ一週間其出席ヲ停止ス

○議長（大岡育造君）是ヨリ質問ニ入ル筈アリマスルが、茲ニ御詰リ申ス事、及ビ
必要ナ事デ報告ヲ致ス事ガアリマスカラ、ソレヲ終ヘテ後ニ質問ヲ開始致シマス、岩崎安
次郎君ヨリ病氣ニ付昨二十二日ヨリ向フ一週間ノ請暇ガアリマス、之ヲ許可シテ御異
議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君）政府ヨリ本日ノ日程ニ掲ゲタル質問ニ對シテノ答辯書ノ送付
ガアリマシタ、之ヲ此際朗讀致サセマス

〔書記朗讀〕

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

衆議院議員島田三郎君提出自治権蹂躪ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員島田三郎君提出自治権蹂躪ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 横濱市會議員選舉區條例廢止並選舉分會設置ニ關スル市會決議事件ニ對
シ神奈川縣知事が不許可ノ指令ヲ與ヘタルハ市行政上適當ナリト認メ法令ノ
規定ニ基キ處分シタルモノニシテ該處分ヲ以テ市會ノ決議ヲ侮辱シ自治制ノ精
神ヲ破壊セルモノトハ認メス

二 質問主意書第二項ニ記載セル如キ事實ナシ

三 横濱市會議員ノ選舉ニ關シ警察官吏カ不當ノ關係ヲ爲シ選舉準備ノ自由ヲ
妨害シタルノ事實アルヲ認メス
右及答辯候也

大正三年二月二十四日

内務大臣原 敬

衆議院議長大岡育造殿

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議員小林勝民君提出政府ノ新領土經營ニ對スル主義方針及臺灣陰謀事
件ノ責任並其前後第二關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員小林勝民君提出政府ノ新領土經營ニ對スル主義方針及臺灣
陰謀事件ノ責任並其善後策ニ關スル答辯書

一 新領土ノ經營ニ付テハ新附ノ人民ヲ皇化ニ浴セシメ富源ヲ開拓シテ產業ヲ發
達セシメンコトヲ期ス

二 臺灣陰謀ハ支那革命ノ影響ヲ受ケ支那人及事理ヲ解セサル一部ノ島民等ノ
企畫セル處ニ係リ臨時法院ニ於テ審理ヲ了セルモノト尙審理中ノモノトアリ

審理ヲ了セルモノニ付テハ犯行ニ照ラシテ夫々相當ノ所罰ヲ爲シ尙相當ノ施設
ヲ爲シ將來ヲ警戒シツ、アリ
右及答辯候也

大正三年二月二十四日

内務大臣原 敬

衆議院議員早速整爾君提出自治権蹂躪ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
也
(別紙)

衆議院議員早速整爾君提出自治権蹂躪ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 大正二年五月十三日廣島市會ニ於テ選舉シタル同市市長候補者、推薦書
ハ同年六月二日内務大臣ニ於テ受理シ審査ノ結果選舉方法中不明ノ點アリ
廣島縣知事ヲシテ調査セシメ同月二十三日其調査報告ヲ受領シタリ而シテ該
選舉ハ適法ニ執行セラレタルモノニアラサルヲ以テ内務大臣ハ市制第九十條ノ
規定ニ據リ七月十日再選舉ヲ行ハシムルヲ適當ト認メテ之ヲ知事ニ命令シタル
モノニシテ合法ノ處分ヲ爲シタリ

二 内務大臣ハ五月十三日ニ於ケル廣島市會ノ會議ハ市制ノ規定ニ依リ催告ノ
手續ヲ爲サス而モ出席議員定數ヲ闕キタルモノナリ從テ其ノ會議ニ於テ執行シ
タル選舉ハ適法ナル選舉ト認ムルヲ得サルニ因リ同市會ヲシテ再選舉ヲ行ハシム
ヘキノ指揮ヲ與ヘタルモノニシテ毫モ自治権蹂躪ノ事實ナシ

三、四 廣島市助役カ市長ノ代理者トシテ大正二年五月十二日同市市會ニ於テ
爲シタル閉會宣言ノ效力如何ハ内務大臣カ本命令ヲ發シタルノ理由ニアラス
五 大正二年五月十三日ノ廣島市會ニ於テ執行シタル市長候補者ノ選舉ヲ適法
ナラスト認メタル事由ハ第二項ニ於テ答辯セル所ノ如シ

右及答辯候也

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

衆議院議員石橋爲之助君外一名提出内務大臣ノ責任ニ關スル質問ニ對シ別紙

衆議院議員石橋爲之助君外一名提出内務大臣ノ責任ニ關スル質問ニ對
スル答辯書

衆議院議員石橋爲之助君外一名提出内務大臣ノ責任ニ關スル質問ニ對
スル答辯書

- 一 質問ノ如キ事實ナシ
 二、三 前項ノ事實ナキヲ以テ辯明ノ必要ヲ認メス
 右及答辯候也

大正三年二月二十四日

内務大臣原敬

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

- 一 政府ヨリ提出セラレタル答辯書左ノ如シ
 滿蒙政策ニ關スル質問(牧野外務大臣)

海軍收賄問題ニ關スル質問(山本内閣總理大臣、齊藤海軍大臣、奥田司法大臣)

首相ノ責任ニ關スル質問(山本内閣總理大臣)

海軍收賄ニ關スル質問(山本内閣總理大臣、齊藤海軍大臣、奥田司法大臣)

會計検査官減員及外三件ニ關スル質問(山本内閣總理大臣)

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

- 衆議院議員藏原惟郭君提出海軍收賄問題ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員林毅陸君提出滿蒙政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員林毅陸君ノ提出ニ係ル滿蒙政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 軍艦ノ注文ハ海軍艦政本部ニ於テ立案シ海軍省軍務局及經理局等ノ調査

ヲ經テ海軍大臣之ヲ決定ス隨テ責任者ハ質問書記載ノ如クナラズ

兵器及材料ノ注文モ重要ナルモノニ在リテハ前述ノ如シ其重要ナラサルモノニ

在リテハ各工廠購買機關ノ選定ニ任ス

本項ノ質問ハ無根ノコトヲ前提セルモノナルヲ以テ答辯ノ限リニ在ラス

查問委員ハ規定ノ命スルトコロニ從ヒ調査ヲ進メ適當ノ措置ヲ爲セリ遠カラス

シテ事件ノ真相ヲ闡明シ得ヘキヲ期ス

本月十日本議場ニ於テ内閣總理大臣ノ言明セル如シ

金剛ハ議會ノ協賛ヲ經タル豫算ノ範圍内ニ於テ注文シタルモノナリ之ヲ注文

スルニ先チ英國造船所中最著名ナル昆社及安社ノ二社ヨリ計畫ト見積リ

トヲ徵シタルニ昆社ノ方見積價格低廉ニシテ且計畫及使用材料共優良ナリ

シヲ以テ昆社ト契約セリ

- 一 軍艦ノ製造ニ對シ前金拂ヲ爲スハ會計法ノ認ムル所ナリ
 內國私立造船所ハ其技術ノ經驗熟練ニ於テ尙ホ望ムヘキモノナキニ非ルモ適

當ナル監督指導ヲ與フレハ其ノ成績間然スル所ナシ價格ノ海軍工廠ニ比シ稍:

質問ノ事實ナシ

大正三年二月二十四日

衆議院議長大岡育造殿

外務大臣男爵牧野 伸顯

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

高キハ事實ナルモ是レ私立造船所ニ在テハ役員ノ俸給資本ニ對スル利益等ヲ加算セサルヘカラサルニ因ル材料ノ品質ニ至リテハ一定ノ標準規格ニ依リ嚴密ナル検査ヲ厲行スルカ故ニ質問ノ如キ事實ナシ
 本件ハ大正二年十一月及十二月中職工數名三井支店雇入ノ仲仕等ト通謀シ工場庫内ノ錫地金四百五十九貫ヲ竊取シ賣ノ上職金ヲ分配シタルモノニシテ該事件ハ廣島地方裁判所ニ送致セリ

- 十 質問ノ事實ナシ
 十一 本項質問ノ前段ニ就テハ政府ハ關知スル所ナシ後段ハ事實無根ナリ
 十二 事實ノ闡明ヲ俟テ適當ノ處置ヲ執ルヘン
 十三 質問ノ事實ナシ

右及答辯候也

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

海軍大臣男爵齊藤 實

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

- 衆議院議員林毅陸君提出滿蒙政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員林毅陸君ノ提出ニ係ル滿蒙政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 東部内蒙古ハ地理上南滿洲ト分離スヘカラサル一地域ヲ形成シ且歴史上行

政上經濟並ニ交通上互ニ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ帝國ハ南滿洲ニ對スル

關係上同地方ニ對シテモ自ラ特殊ノ地位ヲ有スル次第ナリ

二 我資本家代表者ヲシテ六國團體會議錄中ニ日本銀行團ハ改革借款ニ關スル

事項ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於テ日本ノ有スル特殊權利及利益ニ何等不

利益ノ影響ヲ及ボスコトアルヘカラストノ了解ノ下ニ同借款ニ參加スルモノナル

コトヲ留保セシメ置キタリ

三 政府ハ一面機會アル毎ニ關係各國ニ對シ帝國カ南滿洲及東部内蒙古ニ於テ

特殊ノ地位ヲ有スルコトヲ聲言シ以テ其ノ立場ヲ明カニスルト共ニ他面該地方

ニ對シ鐵道其ノ他諸般ノ經營ヲ進メ漸次我利權ノ伸長ヲ期シツヘアリ

右及答辯候也

大正三年二月二十四日

衆議院議長大岡育造殿

外務大臣男爵牧野 伸顯

一 軍艦ノ製造ニ對シ前金拂ヲ爲スハ會計法ノ認ムル所ナリ
 內國私立造船所ハ其技術ノ經驗熟練ニ於テ尙ホ望ムヘキモノナキニ非ルモ適

當ナル監督指導ヲ與フレハ其ノ成績間然スル所ナシ價格ノ海軍工廠ニ比シ稍:

質問ノ事實ナシ

大正三年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議員黒須龍太郎君提出海軍收賄ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員黒須龍太郎君提出海軍收賄ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

一

本項質問ニ付テハ委員會及本議場ニ於テ當局大臣ヨリ委曲説明シタル所ニ依リ已ニ明白ナリト信ス

二 司法官憲及軍法會議ニ於テ日下尙取調ノ進捗ニ力メツ、アリ之カ終了ノ時期ニ付テハ明言スルヲ得ス海軍查問委員會ノ經過ニ付テハ本議場ニ於テ當局大臣ヨリ説明シタル所ノ如シ

三 前段ノ事實ハ之ヲ認メス「シーメンス、シニッケルト」事件ニ付テハ政府ハ其ノ所信ニ依リ國民ノ疑惑ヲ解ク爲最良ト認ムル手段ヲ講シツ、アリ

四、五 答辯ノ限ニ在ラス

右及答辯候也

大正三年一月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

海軍大臣男爵齊藤 實

司法大臣法學博士奥田 義人

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

衆議院議員小山谷藏君提出首相ノ責任ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員小山谷藏君提出首相ノ責任ニ關スル質問ニ對スル答辯書

大正三年一月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

衆議院議員中川虎之助君提出會計検査官減員及外三件ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員中川虎之助君提出會計検査官減員及外三件ニ關スル質問ニ對スル答辯書

大正三年一月二十四日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

衆議院議長大岡育造殿

衆議院議員中川虎之助君提出會計検査官減員及外三件ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

結果ニシテ之ヲ定員改正後ノ實驗ニ徵スルモ事務上何等ノ支障アルヲ見ス

二 閣員ノ政黨ニ入ルト否トハ答辯スルノ限ニ在ラス

三 査問委員ハ其ノ職責ニ鑑ミ最善ヲ盡スニ遺憾ナキヲ信ス末段ハ答辯スルノ限ニ在ラス

四 其ノ必要ヲ認メス

○林毅陸君

議長

○議長(大岡育造君) 暫ク……唯今朗讀ヲ以テ御報告申シマシタルが如ク、質問ノ答辯アリマシタ件ダケハ今日ノ質問ノ日程ヨリ自然ニ省カレタコトニナリマス、又海軍ノ質問、即チ海軍大臣ノ報告ニ對シテノ質問ハ、先日數回應答ノアリマシタルニ拘ラズ、尙ホ通告ノ諸君モ數多アルノアリマス、斯ウ云フ大臣ノ演説ニ質疑ヲ爲スコトノ中途ニ於テ散會シタル場合ニ、是ガ繼續スルヤ否ハ例トシテハ別ニ見ル所ハアリマセヌガ、必要ナリト考ヘマシテ本日前日ノ繼續質問ヲ許ス積リテアリマス、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議無イモノト認メマス

海軍問題ニ關スル件

(海軍大臣男爵齊藤實君登壇)

○海軍大臣(男爵齊藤實君) 過日藏原君ヨリ質問ニナリマシタ演説ノ内容ノ中ニ、一二三事實ノ無イ事ヲ申サレテ居リマスルニ依テ、之ニ對シテ一應ノ答辯ヲ致シテ置キタイト考ヘマス、即チ英國ニ於テ竹内主計中監ノ犯罪行為ニ付キマシテ、ソレニ關聯致シ、名倉主計中監が此事ニ干與致シ、海軍大臣ト名倉トノ親交ナル關係云々ト云フコトヲ述ベラマシタガ、是ハ名倉主計中監ノ病死致シマシタ時ニハ、未ダ英國ニ於テ竹内事件が起ラナイ時ニアリマシタ、名倉主計中監病死後ニ加木甚三郎ト云フ主計官ガ、官金費消ノコトニ付テ軍法會議ニ迴サレテ、是カラシテ竹内主計中監ニ關係ノアルト云フコトヲ軍法會議ニ於テ發見致シ、取調ノ結果名倉ノ存生中ニ竹内ト加木ノ間ニ立ツテ、金錢ヲ往復致シタト云フコトが明カニナッタノアリマス、而シテ名倉ノ存生中水交社即チ海軍ノ俱樂部アリマスルガ、其會計ノ監督ヲ致シテ居タ、ソレカラ又義濟會ト云フ海軍ノ士官ノ死亡致シタトキニ相互通報致シテ居ル、ソレカラ此会計名倉ト云フ主計監ニ監督ヲ依頼シテ居タノアリマス、此兩會ニ付テ、其當時私ハ水交社ノ副社長アリ、義濟會ノ副會長アリマシタ、其關係ヲ以テ名倉ニ此會計ノコトヲ扱ハセテ公事上ノ交際ハアルノアリマス、併シガラ此人ト私トハ一切私交上ノ關係ハ何モナシ、而シテ此人ガ死ヌニ當ツテ水交社並ニ義濟會ノ整理が能ク出來テ居ツテ、誠ニ遺憾ガナキタタメニ、現ニ死ニマシタ時ノ如キモ、私ハ此兩會ノ資格ヲ以テ弔問モ致シタヤウナ譯アリマス、誠ニ能ク勤メタト私ハ認メテ居タノアリマス、然ルニ死後ニ至ツテ他ノ刑事問題が起リマシタ時ニ、此人ガ間ニ入ツテ金ノ往復ヲシタト云フコトが露ハレタノアリマス、而シテワレハ甚ダ私モ驚イタ次第アリテ、何等此人ノ存生中ニ不正ナルコトガアルト云フコトヲ私ハ認メ得ナカツタノアリマス、是ハ私が親密ナル關係

ハ何モナイト云フコトヲ證言スル爲ニ此事實ヲ申スノアリマス、ソレカラ海軍が兵器並ニ艦船ノ注文ヲ爲スニ當ツテ、伊集院軍令部長、山本總理大臣、松本吳鎮守府長官等が是等ノ議ニ與カル云々ト云フコトガゴザイマスガ、是ハ軍令部長が軍艦兵器ノ注文ニ干與スルコトハ一切無イノアリマス、又總理大臣ニモ一切關係が無イノアリマス、吳鎮守府ノ司令長官ニモ關係が無イノアリマス、但シ松本中將が艦政本部長タリシ時ニハ、是ハ主任者ニアリマスカラ、艦政本部長ノ資格ヲ以テ、即チ此注文ニ主トシテ當ツタノデアリマス、吳ノ長官ナドト致シテハ何モ關係が無イノアリマス、從シテ斯ノ如キ官職ノ人ニ對シテ交渉ス必要モナケレバ、致シタコトモ無イノアリマス、是等ハ全ク事實ノ無イコトニアリマスルカラ茲ニ辯ジテ置キマス、而シテ此艦船兵器ノ注文ノコトニ付キマシテ、過日本院ノ誰方カラカ書面ヲ以テ御質問ニナッタニ對シテ、書面ヲ以テ御答シタ通リノ徑路ヲ以テ調査ヲ致スノアリマス、明カニナッテ居ル次第、ソレカラ軍艦淺間ヲ英吉利ニ於テ製造致シマシタ時分ニ、其材料ニ缺點ガアツタ云フコトニ付テ、福田造船總監ノ監督官長テ倫敦ニ居ル時代ニアリマシテ、福田造船總監ノ監督官長ニ申サナケレバナラヌガ、是ハ事實無イコトニアリマシテ、福田造船總監ニモ此質問以後私が確メマシタ、即チ福田總監ノ言ハル、トコロニ依リマスルト、其當時松永少將が監督官長テ倫敦ニ居ル時代ニアリマシテ、若シ斯様ナコトガアレハ公使ニ申ス答モナク、松永監督長ニ申サナケレバナラヌガ、任務中左様ナルコトヲ致シタコトハナイ、サウ云フ、重大ナル問題ノ起ツタコトモナイ、ソレカラ事實ノ上カラ申シマシテモ、軍艦淺間が日露戰役ニ參與致シテ多數ノ彈丸ヲ受ケテ居リマス、其結果同艦ノ後部ノ方ニ中シテ十二時砲ノ二發ノ如キハ、ナカク、重要ナル部分ヲ擊ツテ居ルノアリマス、然ルニ材料ノ立派ナルコトハ其時ニ彈痕竝ニ復舊ノ狀態ニ見テ明カナノアリマス、是ハ即ち實際ニ於テ材料ノ不良デナイト云フコトヲ證明致シテ居ルノアリマス、是ハ事實ノ違ツタコトダケニ付テ一應茲ニ辯明致シテ置キマス。

○議長(大岡育造君) 田川大吉郎君

(田川大吉郎君登壇)

○田川大吉郎君 譲若、私モ本問題ニ關シテ數項ノ質疑ヲ試ミマス、第一ノ問ハ政府委員ノコトニ關シテ居リマス、政府委員ノ一人ノ身上ニ關シテ居リマス、新聞紙ノ傳フルトコロニ依レバ、政府委員ノ一人が家宅搜索ヲ受ケタト云フコトニアリマス、但シ他ノ新聞ニハ此報道ヲ否定シテ傳ヘアリマス、故ニ眞偽否ヤ不分明デアリマス、故ニ果シテ此事アリシカ又無カリシカト云フコトヲ問フノアリマス、附加ヘテ問ヒマスガ、若シ此事アリタリトセバ、其政府委員ヲ引續キ此議場三臨マセテアルコトハ、政府委員ノ威信面目ニ關係エクトナシト政府ハ思惟スルヤ否ヤ、是が第一ニアリマス、第二ハ獨逸ノ法廷ニ於ケル關係ノ書類、私ハ此關係ノ書類ト云フコトヲ一切ノ證據書類ト云フ、風ニ深ク誇ク申スノアリマセヌ、世間ニ明カニ表示セラレタル判決書ダニモ未ダ到達致シマセヌカ、斯様ナコトヲ問フノアリマス、但シ先日ノ御答ニ依ツテ其書類モ未ダ到達シナイ模様ノヤウニ伺ヒマシタガ、此事件ノ發生以來既ニ一箇月ヲ經過シテ居リマス、議院ノ要求ハ電報ヲ以テ之ヲ取寄セヨト云フコトデアル、當局モ亦電報ヲ以テ之ヲ取寄スペシト御答ニナツテ居ル、一箇月ヲ經過シ、議院ノ要求シテ以來二十日以上ヲ經過シテ、而シテ其判決全文スラ未ダ到達セザルニ至ツテハ、到達セザル事情ノ内部ヲ怪マザルヲ得ヌノアリマスカ、私ノ問ハ其内部關係テハナリ、左様ナ關係書類ハ到達スベキ望がアルノカ、若クハ其望が既ニ絶エタノカ、是が問デアリマス、第二本事件ニ關係致シマシテ、外國ノ會社員ト會社員トノ間ニ往復セラレタル書面ノ中、譬へ日本ノ無線電信所ノ建設際シ、ソレガ百五十万馬克ノ價格ナル時ハ、祕密ノ支出トシテ其上ニ十五バーセントヲ加ヘタルモノヲ以テ表面ノ價格ト爲シタル事實アリ、斯様ナ意味ノ文書ガ、關係ノ會社員ト會社員トノ間ニ往復セラレタル事實ヲ發表ニナツテ居リマス、其眞偽如何モ問題デアリマスカ、斯様ナ噂ノ世間ニ傳ヘラレマシタル結果トシテ、海軍當局者ハ是が調査若クバ其研究ノ爲ニ、其後如何ナル手段ヲ執ツテ居ラレルヤ、是が問デアリマス、第四ニ私ハ本問題ノ暴露シカケタル當初ニ於ケル海軍大臣ノ態度ニ對シテハ、敬意ヲ表シ同情ヲ拂ヒツ、アル者ニアリマス、此點ニ於テハ先般來幾度カ難詰セラレタル多クノ諸君ノ態度ニ、私ハ少シク違ツタ考ヲ持ツテ居ル、事ノ初メニ於テ成ベク之ヲ内輪限リ穩カニ解決シ去ラントセラレタル海相ノ態度ハ、大臣トシテ將ニ然ルベキトコロノ態度ダト私ハ信ズルノアル、部下ニ多少ノ不正ノ謗ヲ傳ヘラレタル者ガアリ、何等カノ怪シムベキ事件が伏在シテ居ルカノヤウニ噂サレマシタル場合ニ、一々其噂ヲ取上げテ、之ヲ世間ニラシムベク御注意ニナリマシタル點ハ、私ノ同情ヲ表スル點ニアリマス、サリナガラ斯ノ如キ暴露シテ自ラ得タリト爲スコトハ、決シテ大臣ノ態度デナイト私ハ斯様ニ思ツテ居リマス、是ハ事實ノ違ツタコトダケニ付テ一應茲ニ辯明致シテ置キマス。

ハレルヤウナ今日ノ悲シキ狀態ニ陥ルコトモ無クシテ濟ンダテアラウ、若クハ帝國ノ政府、帝國ノ威信、面目ヲ中外ニ失墜スルコト、今日ノ如ク甚ダシキ狀態ニ陥ラザルコトヲ得タノアラウ、所が最初ニ之ヲ成ベク無事ニ内輪ニ濟シテ濟マシタイト云フ原キ注意ヲ拂ハタル結果トシテ、事が國內ニ於テ處理セラレズ、外國ノ官憲ノ手ニ依テ暴露セラレルトル譯ニアリマス、斯様ナ風ニ其執ラセラレタル態度ニ依テ、初メニ之ヲ巧ミニ處理セラルベ、初メニ巧ニ之ヲ處理セラル、方針ニ依テ今日マテ漏縫シ掩蔽シ來ラレル結果トシテ、今日ノ狀態ニ陥ツテ居ル、此狀態ニ對シテ當初ヨリモ一重又三重ノ重キ責任ヲ負ハケレバナラナイ位地ニナツテ居リマス、之ニ對シテ大臣ノ所見如何、斯様ニナリ來テ居リマスル事ニ對シテ大臣ノ覺悟如何、是が私ノ問デアリマス、第五ニ更ニ一つノコトヲ總理大臣ニ向ツテ御尋スル、同僚林毅陸君ノ問ニ對シテ、嫌疑ト云ヘルハ速記ノ間

達テワレハ言議ニアッタ、斯様ニ訂正セラレマシタ趣意ハ能ク了解致シマシタ、詰リ嫌疑ニ依テ輕ミシク進退スルモノニアラズト速記セラレテ居タコトハ、言議ニ依テ輕ミシク進退スルモノニアラズト速記セラルベキ大臣ノ演説ノ趣旨ニアッタ、斯様ナコトハ誠ニ能ク了解致シマシタ、併シ今日ノ問題ハ、嫌疑ニアラズ言議ニアラズ此現在ノ事實ニ對スル總理大臣ノ所見立ニ覺悟如何、是ガ私ノ第五ノ問デアリマス、之ニ對シ海軍大臣竝ニ山本首相ヨリ明白ナル答ヲ得シコトヲ要求致シマス

○議長(大岡育造君) 齋藤海軍大臣

(海軍大臣男爵齋藤實君登壇)

○海軍大臣(男爵齋藤實君) 田川君ノ御問ニ對シマシテ御答ヲ致シマス、第一ノ政府委員ノ中ニ家宅搜索ヲ受ケタ者アリヤ否ヤト云フ御尋ニアリマスガ、唯今マテ右様ナコトハ承テ居リマセヌ、事實無イコト、考ヘマス、ソレカラ第二ノ此獨逸ノ裁判所ニ於ケル書類ノコトデゴザイマス、是ハ無論電報デ始終往復致シタノデアリマシテ、即チ外務大臣ヲ介シテ之ヲ手ニ入ル、コトノ方法ヲ講ジツ、アルノデゴザイマス、判決書ノ如キモ唯是ガ口達ニアリマシテ、書類ハ無カタト云フヤウニ報告ニナッテ居リマシタガ、要領ハ報告ニナッテ先達モ讀ミシタ通りアリマスカラ、判決ノ要領ニ於テハアレテ間違ガナイモノ考ヘテ居リマス、而シテ證據書類ノコトニ付キマシテハ、一昨日御答致シタ通り、最近マテ之ヲ得ルコトニ努メテ手ヲ盡シテ居ル次第アリマス、尙ホ是ハ外務當局ニ於テ盡サレマシタルトコロノ手段ハ、外務省ノ方カラ或ハ御答辯致シタ方が宜クハナイカト考ヘマス、第三ノ御問ノ無線電信契約云々ニ關スルコトデゴザイマスガ、是ハ契約ノ當時、亞米利加竝ニ英吉利ノ方ニ同様ナル力ノ機械ノ價格ヲ問合セテ、之ニ依テ現在契約致シテ居ルトコロノ價格ハ、凡ソノ標準ヲ定メテ出来得ルダケノ減價ヲ致サセテ契約ヲ致シタノアリマス、唯今御話ノ如ク祕密ニ何某ノ金ヲ加ヘテアルト云フガ如キハ、無論知ルトコロガナイノデアリマス、ソレカラ(田川大吉郎君「調査ニ著手サレッ、アルヤト云フ問デアリマスサウ云フ喰ラ過眼覗サレル譯二行クマイ斯様ニ信ブルノデアリマス」ト呼フ)新聞紙等ニ多少イロノノ記事ハ見エマスル故ニ、私ノ方デハ如何ニシテ價格ヲ定メ、此價格ガドウ云フ譯ア標準トシタト云フコトニ就テハ、十分ナル調査ヲ致サセテ居リマス、ソレハ書面ニ致シテモ調べサセマシタ、又報告モ得テ居ルノデアリマス、ソレカラ第四ノ御尋ノ私ノ取リマシタル手段、所見ト云フコトニ付キマシテハ、是ハ過日來御答辯致シテ居ルコトノ範圍ニ屬シマス次第アリマス、是ハ改メテ申上ゲマセス、當時ノ狀況ハ御分リニナッテ居ルコト、考ヘマス、且又此結果ハ豫テ申シマスル通り、事實ノ闡明ヲ待チマシテ考慮致シマスル次第アリマス

(内閣總理大臣伯爵山本權兵衛君登壇)

○内閣總理大臣(伯爵山本權兵衛君) 唯今田川君ノ第五デゴザイマシタルカ、ソレニ就テ私ノ實際ノ目下ノ場合ニ對スルトコロノ所見ヲ御尋ニナリマシタノデゴザイマス、是ハ過日來屢々此議場ニ於テ申述ベマシタル通り、裁判上ノ結果ヲ待テ後テナケレバ、今之

ニ對スルトコロノ所見ヲ申述ブル必要ハナイト、今マテ申述ベタ通り、今日モ少シモ違ヒマセス、左様御承知フ願ヒマス

○議長(大岡育造君) 小林勝民君

(小林勝民君登壇)

○小林勝民君 私ハ山本首相及海軍大臣ニ對シマシテ、關聯シタル質問ヲ致シマス、中將村上中將武田中將以下ノ此家宅搜索三就テハヤハリ「シーメンス」事件モ含マレテ居ル、斯

事件ト云フモノ極力明白ニシヤウト云フ趣旨カラ開カレタノデアリマス、然ルニ未ダ此事件ガ結了セザル今日ニ於テ、突然查問會ヲ閉チラレタト云フコトハドウ云フコトデアルカ、此點ヲ質問ヲ致シタイ、ソレカラ第二ニ今日マテ現ハレテ居ルトコロニ依テ見マシテモ、海軍ニ免ニモ角ニモ缺陷ガ生ジテ居ルト云フコトハ、殆ド争フベカラザル事實デアル、此缺陷ノ程度ガ或ハ人ニ關係スルカ——人ノドノ位ノ範圍ニ關係スルカハ分リマセヌケレモ、免ニモ角ニモ缺陷ガ生ジテ居ルト云ノコトハ事實デアル、然ルニ海軍ニ取テ最モ重要ナル艦船兵器等ノ——國ノ興亡ニ關係スルトモ云フベ艦船兵器ノ此缺陷三就テ、首相及海軍大臣等ハ之ニ就テ何等ノ調査ヲサレナインデアルカドウカ、此點ニ就テハ何時モ唯人間ニ就テノ調査ダケデ、此軍艦及兵器等ノ此重要ナル缺陷、即チ傳ヘラレル如ク「コンミッシュン」ト云フヤウナモノが假リニ事實ナリトセバ、ソレダケノ缺陷ガ生スル譯テアル

(此時私語スル者多シ)

○議長(大岡育造君) 静肅ニ願ヒマス

○小林勝民君 其缺陷ニ就テ、何故ニ何等調査ヲサレナインカト云フコトヲ御尋ラ致ス、ソレカラ過日來(此時私語スル者多シ)靜ニオシナサイ

○議長(大岡育造君) 静肅ニ願ヒマス

○小林勝民君 段々山本首相及海軍大臣等が就職ノ初メ以來、誠意ヲ以テ正々堂堂トシテ、至誠ヲ以テ國民ニ對スルト云フコトヲ常ニ言明セラレテ居ル、私モ爾ク信シタニト思フ、然ルニ閣下等が議會ニ言明セラレル責任ト云フコトニ就テハ、私ハ甚ダ其責任論ニハ迷ハザルを得ヌノデアル、今日ニ於テ免ニモ角ニモ少將以下ノ権要ナル人ヲ軍法會議ニ送リ、若クハ而モ鎮守府司令長官ノ如キ、殆ド獨立シタル重要ナル職責デアル、本員等ノ承ルトコロニ依レバ、帝國ノ海軍部内ニ於キマシテ、司令長官等が家宅搜索ヲ受ケタト云此一事ノ爲ニ、殆ド海軍ノ軍紀ハ頽廢シテ殆ド下ミノ一職工ニ至

ルマテ長官ノ命令ヲ聞カヌト云フコトデアル、斯ノ如ク軍紀ハ頽廢シタル今日ニ至リテ、斯

ウ云フヤウナ事柄が續々現出シテ、アルニモ拘ラズ、大臣タル者ガ責任ヲ自覺サレナイト
云フノハドウ云フ譯デアルカ、所謂大臣ノ責任ト云フノハ法律上ノ責任アルカ、決シテ
サウ云フコトデ相濟マスキモノアリマスマ、免ニモ角ニモ此責任ナルモノハ國家ヲ
雙肩ニ擔フテ居ル大臣ノ責任トシテハ、斯ノ如キ暗黒ナル醜雲ヲ張ラシタト云フ此一ツ
ノ事ニ就テ、相當ノ責任ヲ負ハレルノハ當然ナニカト思フ、其責任ニ就テノ自覺ノ御
考ヲ聞キタイ

(海軍大臣男爵齋藤實君登壇)

○海軍大臣(男爵齋藤實君) 唯今小林君ヨリノ御尋ニ御答致シマス、查問委員會閉
鎖ノコトハ過日御報告申上ダマシタ通リノ次第デアリマシテ、是ハ當時唯外國電報が
入リマシタダケデアツテ、果シテ嫌疑ト認ムベキモノデアルヤ否ヤト云フコトハ、判定セヌノ
デアリマスカラ、直チニ法律ノ力ヲ以テ行クコトハ出來ヌノアリマス、ソレ故ニ查問委
員會ヲ開キマシテ此手續ヲ取ッタノニアリマス、然ルニ一昨日御報告致シタ通リノ次第
ナリマシタカラ、最早此必要ヲ認メズシテ之ヲ閉鎖致シマシタノアリマス、尙又今後
所謂裁判ノ結果ト致シテ起ルコトニ付キマシテハ、是ハ查問會ヲ要セヌノアリマス、
故ニ閉鎖致シタ次第デアリマス、ソレカラ軍艦兵器ノ缺陷云々ト云フコトニ付テ御質問
デゴザイマス、少シク要領ヲ得ヌヤウニ考ヘマスガ、唯今ノ所デハ何等缺陷ヲ認メテ居リ
マセヌ、是ハ物其モノニ付テ明ニ御答辯が出來マスカラ、何カ御指示シニナレバ詳シク
御答辯ヲ致シマス、ソレカラ責任云々、家宅搜索ヲ受ケタル者ニ付テ云々ト云フコトガ
ゴザイマシタガ、元ヨリ事ノ問題ニ上ルヤウナコトガゴザイマスレバ、決シテ拋擲致シテ
置カヌノアリマス、併ナガラ家宅搜索ヲ致シテモ問題が起ラヌノニ、何等ノ處分ヲ當
テルト云フコトハ出來ヌノアザイマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○川原茂輔君 議長——議事ノ進行ニ付テ一言致シタイ

○議長(大岡育造君) 川原茂輔君

○川原茂輔君 議事ノ進行ニ付テ四ノ動議ヲ提出致シタイト思ヒマス、第一ハ海軍

大臣ノ報告ニ對シテ段々御質問ヲ屢々繰返サレマシタガ、大概同シコトニ歸著スル、ソコ

デ此問題ハ質問終結ニ致シタイト云フノガ一ノ動議デアリマス(「贊成々々」ト呼フ者ア

リ)モウ一ハ今日ノ日程即チ質問ガ一ヨリ十一マテアリマスガ、其中ノ大部分ハ答辯

濟、又質問セントスル議員が此席ニ在ラザルノヲ認メルノテアリマス、ソレデ其先キノ戸

籍法第一ヨリ第十二至ル問題ハ是ハ政府案デアリマシテ、其中ニハ最モ急グモノモアリ

マスカラ、之ヲ先キニシテ質問ヲ後ニスル、又モウ一ハ公報第三十一號ノ日程ノ第十三

ヨリ十八マテハ、織物消費税ニ關スル改正法律案、通行稅地租條例改正案、國稅徵

收法中改正案、是等ハ總テ減稅ニ關係スル問題デアリマスカラ、本日ノ日程ニ引續キ
マスレバ其次ニ此質問ヲナサレタイト云フ、此四箇ノ動議ヲ提出致シマス

(「贊成々々」「ノウ」「拍手起ル」)

○議長(大岡育造君) 川原君ニ御尋ヲ致シマスガ、質問終結ト認メルト云フノガ一
ツ……

○川原茂輔君 質問ノ終結ハ海軍大臣ニ對スル質問ノ終結、ソレカラモウ一ツハ本
日ノ日程ヲアベコニスル……

○議長(大岡育造君) ソレハ日程變更ノ動議ニナル

○川原茂輔君 此三十一號ノ減稅ニ關スルコトヲ引續キヤルト云フコトガ一ツ、ソレデ
質問ガ一番後トニナルト云フ動議……

○議長(大岡育造君) ソレデハニツテスナ

○川原茂輔君 日程變更ノ外ニ日程ノ追加ガ一ツアリマスカラ四ツニナリマス

○議長(大岡育造君) 餘り數ガ多イヤウデアリマスカラ一々ニ詰ヒマス、海軍大臣ニ
對シテ質問終結ト認ムルト云フ、是ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(大岡育造君) 多數ト認メマス、依テ海軍大臣ニ對スル此場合ノ質問ハ終
了ト認メマス

〔此時伊東知也君「質問ヲ後ニ迴ハスト云フコトハドウ云フ意味デアルカ一向分
ラヌ」ト呼フ〕

○議長(大岡育造君) 日程變更ノ動議デアリマスカラ之ヲ御説リ申シマス、即チ質問
ヲ後ニシテ茲ニ掲ケタル政府ノ案件十一マテヲ先づ議ニ付シテ、サウシテ更ニ公報三十
一號ノ日程、即チ先日ノ日程ノ十三カラ十九マテヲ加ヘテ討論終結シテ後ニ日程ノ質
問ニ入ルト云フ、是ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長(大岡育造君) 多數ト認メマス、依テ川原茂輔君ノ動議ノ如ク變更サレマシ
タ

〔小泉又次郎君「川原君ノ質問ヲ後ニスルト云フコトニ付テ議長ノ宣告ガ徹
底致シマセヌカラ茲ニ質問ヲシタイト思ヒマスガ發言ヲ許シマセヌカ」ト呼フ〕

○議長(大岡育造君) 最早決定致シマシタ——日程第一戸籍法改正法律案ノ第一
讀會ヲ開キマス

第一 戶籍法改正法律案(政府提出)

戸籍法

第一章 戸籍事務ノ管掌

第二 戶籍簿

第三章 戸籍ノ記載手續

第四章 居出

第一讀會

第一節 通則	出生
第二節 認知	
第三節 認知	
第四節 養子縁組	
第五節 養子離縁	
第六節 婚姻	
第七節 離婚	
第八節 親權及ヒ後見	
第九節 隱居	
第十節 死亡及ヒ失踪	
第十一節 家督相續	
第十二節 推定家督相續人ノ廢除	
第十三節 家督相續人ノ指定	
第十四節 入籍 離籍及ヒ復籍拒絶	
第十五節 廢家及ヒ絶家	
第十六節 分家及ヒ廢絶家再興	
第十七節 國籍ノ得喪	
第十八節 氏名 族稱ノ變更及ヒ襲爵	
第十九節 轉籍及ヒ就籍	
第五章 戸籍ノ訂正	
第六章 抗告	
第七章 罰則	
附則	
戸籍法	
第一章 戸籍事務ノ管掌	
第一條 戸籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス	
第二條 市町村長ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル戸籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコト得ス	
第三條 戸籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス	
戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス	
トキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス	
第四條 市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ居出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタル	

第五條 市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務不行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條 第二條及び第四條ノ規定ハ戸籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス
手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 戶籍簿
條 戶籍、市町村

第九條 戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ
一戸毎ニ之ヲ作ル

第十條 戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編繕シテ帳簿ト爲ス
一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫ア

ハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム
第一條 古舊ハ正則二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備へ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條 新ニ戸籍ヲ作リタルトキハ市町村長ハ遲滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條 戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村
又シ易外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第十四條 戸籍簿ヲ閲覽シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケントス

ル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得
手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限り前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得
比陽令ニ於テハ書面ヲ以テ其言ヲ請求者ニ告知スレコトヲ要ス

此城合ニ於テノ書面未以テ其旨未詳法第ニ合致シハシニテ事
謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏

名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

キハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合

第十六條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルト
ニ於テハ其旨示フルコトヲ要ス

キハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス
除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之
ヲ準用ス

第三章 戸籍ノ記載手續

第十八條 戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 戸主 前戸主及ヒ家族ノ氏名

二 戸主ノ本籍

三 戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱

四 戶主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱

五 戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日

六 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日

七 戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族ト實父母トノ續柄

八 戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其養親竝ニ實父母ノ氏名及ヒ養子

ト養親竝ニ實父母トノ續柄

九 戸主ト前戸主及ヒ家族トノ續柄

十 家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ

其家族トノ續柄

十一 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ

有スルトキハ其續柄

十二 他家ヨリ入りテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍原

籍ノ戸主ノ氏名及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

十三 後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ氏名本

籍及ヒ其就職竝ニ任務終了ノ年月日

第十九條 戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一 戸主
第二 戸主ノ直系尊屬
第三 戸主ノ配偶者
第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者
第六 戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ作リタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコト

ヲ要ス
第二十條 戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求、證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス
申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ

第二十一條 戸籍ニハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ

申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ

二 報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報告者又ハ請求者ノ職氏名
三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ

其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名
四 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

五 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ

作製者並ニ謄本發送者ノ職氏名
六 戸籍ノ記載ヲ命シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲ス

七 戸籍地ノ市町村長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲ス

コトヲ要ス
第二十三條 家督相續、家督相續回復其他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付キ届出、申請又ハ請求アリタルトキハ其届出、申請又ハ請求及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スルコトヲ要ス
家督相續人カ胎兒ナルトキハ其出生ノ記載ヲ爲スマテハ前二項ノ手續ヲ

爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 復籍拒絶ノ届出アリタルトキハ復籍拒絶者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後新戸籍ヲ作ルトキハ之ニ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ移記スルコトヲ要ス

復籍拒絶セラレタル者カ死亡シ其他復籍スルコトナキニ至リタルトキハ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 家督相續人指定ノ届出アリタルトキハ其指定ヲ爲シタル者ノ

戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十六條 離籍又ハ廢家ニ因ル除籍ノ手續ハ離籍セラレタル者ノ一家創立又ハ廢家ヲ爲ス者ノ入籍ノ手續アリタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

一四

第二十七條 一戸ノ全員又ハ一日内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條 戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用井ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ市町村長之ニ認印シ

第二十九條 戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ市町村長ハ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十條 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用井蓋シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ要ス

得此場合ニ於テハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ製印ヲ爲スコト

第三十一條 届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ市町村ヨリ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遅滞ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十二條 前條ノ場合ヲ除ク外他ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ遅滞ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十三條 本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出ヲ受理シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其届書及ヒ前ニ受理シタル届書ニ付キ之ヲ適用ス

第三十四條 前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條 届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ市町村長ニ入籍ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此

限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ロテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ

編綴シ且各自錄ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且自錄ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタ

ル書類亦同シ

第三十七條 前條第一項ノ書類ハ一个月毎ニ遅滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第三十八條 第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遗漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遅滞ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス但其錯誤又ハ

遗漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遗漏アルコトヲ知リタルトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第四十條 同一ノ事件ニ付キ數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條 行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但其記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十二條 市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クコトヲ要ス

第四章 届出

第一節 通則

第四十三條 届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條 日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル届出ハ其寄留地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

所在地ノ市町村長カ居書ヲ受理シタルトキハ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第四十五條 本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ居出アリタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ居出人又ハ居出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ居出事件ヲ表示シテ居出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ居出ヅルコトヲ要ス

第四十六條 居出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 居書ニハ左ノ事項ヲ記載シ居出人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 居出事件

二 居出ノ年月日

三 居出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

四 居出人ノ居出事件ノ本人及ヒ其本人ノ父母ノ職業
居出事件ニ因リ居出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去り、他家ニ入り、其他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ居書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日竝

ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

四十八條 居出人ト居出事件ノ本人ト異ナルトキハ居書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

四十九條 居出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ居出義務者トス但出生、死亡、其他單純ノ事實ニ關スル居出ハ未成年者又ハ禁治產者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ居出ヲ爲ス場合ニ於テハ居書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
居出人カ家族ナルトキハ居書ニ戸主ノ氏名及ヒ居出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條 無能力者カ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得シテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ居出ヅルコトヲ要ス

五十一條 證人ヲ要スル事件ノ居出ニ付テハ證人ハ居書ニ出生ノ年月日

及ヒ本籍ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

五十二條 居出人ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ居書

ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス
第五十三條 居書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル居書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條 居書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條 第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ居書ニ之ヲ準用ス

第五十六條 二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ居書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ居出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尙ホ一通ノ居書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ居書ノ謄本ヲ作り之ヲ以テ居書ニ代フルコトヲ得

第五十七條 口頭ヲ以テ居出ヲ爲スニハ居出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ居書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ居出人ノ陳述ヲ筆記シ居出ノ年月日ヲ記載シテ居出人ニ讀聞カセ且居出人ヲシテ其書面ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

居出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ居出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 居出事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承認ヲ要スルトキハ居書ニ其同意、承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但同意、承諾又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ居書ニ其旨ヲ附記シ署名捺印セシムルヲ以テ足ル

居出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ居書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條 居書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第六十條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ居出ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ方式ニ從ヒ居出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一个月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス

大使、公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ一个月内ニ本籍地ノ市町

村長ニ證書ノ謄本ヲ發送スルコトヲ要ス

第六十二條 大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ

一个月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市

町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條 居出期間ハ居出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條 市町村長カ居出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ居出義務者ニ對シ其期間内ニ居出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ居出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ居出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ居出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 市町村長カ居出ヲ受理シタル場合ニ於テ居書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ居出義務者ヲシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 居出期間經過後ノ居出ト雖モ市町村長ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條 居出人ハ居出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條第二項ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 居出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第一節 出生

第六十九條 出生ノ居出ハ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

居書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一子ノ名及ヒ男女ノ別

二 子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨

官報號外

大正三年二月二十五日

衆議院議事速記録第十五號 戶籍法改正法律案 第一讀會

三 出生ノ年月日時及ヒ場所

四 父母ノ氏名及ヒ本籍

五 子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

六 子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所

七 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條 出生ノ居出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到着地ニ於テ居出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 婦出子出生ノ居出ハ父之ヲ爲シ父カ居出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百二十四條第一項第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 婦出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖モ出生ノ居出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ居出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ居書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第

六十九條第二項ニ掲ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十六條 病院監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

二九五

ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコト
ヲ要ス

第七十七條 出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生

ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 梨兒ヲ發見シタル者又ハ梨兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ
二十四時内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ申出アリタルトキハ市町村長ハ氏名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品、
發見ノ場所、年月日時其他ノ状況及ヒ氏名、男女ノ別、出生ノ推定年月並
ニ本籍ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス其調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第七十九條 父又ハ母カ梨兒ヲ引取ルトキハ一個月内ニ第六十九條第二項
ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條 第七十八條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ梨兒カ死亡シタ
ルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 認知

第八十一條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 子ノ氏名、男女ノ別、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

三 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名及ヒ本籍

四 子カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ト子トノ續柄

第八十二條 胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其旨、母ノ
氏名及ヒ本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツルコトヲ要

ス

第八十三條 父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其届出ハ認知届出ノ效
力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付
キ父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十四條 認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判
ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲
スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條 遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其就職ノ日ヨリ
十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ勝本ヲ添附シ第八十一條又ハ第八十二條ノ
規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務
者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出
ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言
執行者其届出ヲ爲スコトヲ要ス

ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第四節 養子緣組

第八十八條 緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ緣組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ掲ケタ
ル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 配偶者ノ一方カ双方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ届
書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リ緣組ノ承諾ヲ爲シタル場
合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ緣組ノ届出ヲ爲ストキハ緣
組ニ關スル遺言ノ勝本ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十二條 緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ
確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第九十三條 緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判
確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第九十四條 第五十七條第三項ノ規定ハ緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節 養子離縁

第九十五條 離縁ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名及ヒ本籍

二 養子ノ氏名及ヒ本籍

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四 養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五 養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所但實家

ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其協議ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十八條 離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ證本ヲ添附シ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届出ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條 第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節 婚姻

第一百條 婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 父母ノ氏名及ヒ本籍

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

四 入夫婚姻又ハ増養子縁組ナルトキハ其旨

五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ルトキハ其旨

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百一條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ増養子縁組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ居出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二條 第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滞ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三條 第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節 離婚

第一百四條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名及ヒ本籍

二 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

三 婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五 婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第一百五條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ證本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届出ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百六條 第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 親權及ヒ後見

第一百七條 父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ證本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス其届出ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百八條 第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ届出ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百九條 後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届出ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

三 後見開始ノ原因及ヒ年月日

四 後見人就職ノ年月日

第一百十條 後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨

ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第一百十一條 遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ證本ヲ届出ニ添附スルコトヲ要ス

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届出ニ添附スルコトヲ要ス

第一百十二條 後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届出ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 被後見人ノ氏名及ヒ本籍

二 後見終了ノ原因及ヒ年月日

第一百十三條 前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一百十四条 後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節 隱居

第一百五十五条 隱居ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日並ニ本籍及ヒ家督相續人ト隠居

著トノ續柄

第十節 死亡及ヒ失踪

第百十六條 死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ五日 内ニ診斷書若クハ検索書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 死亡者ノ氏名及ヒ本籍

二 死亡ノ年月日時及ヒ場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

第百十七條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ従ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス 但順序ニ拘ハラス届出ヲ爲スコトヲ得

第一 戸主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第百十八條 死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條 水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ 其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報 告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ通滞ナク監獄所在地ノ 市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ検索書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條 前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサ ル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作り之ヲ添附シテ通滞ナク死亡地ノ 市町村長ニ死亡ノ報告ヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル者カ死 亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十三條 第七十一條第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十四條 失踪宣告ノ届出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日

内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 失踪者ノ氏名及ヒ本籍
二 民法第三十條ニ定メタル期間満了ノ日
三 失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第十一節 家督相續

第一百一十五條 家督相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル 日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日

二 前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト戸主トノ續柄
戸主ト爲リタル者カ外國ニ在ル場合ニ於テハ三个月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第一百二十六條 選定ニ因ル家督相續人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ選定ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス
第一百二十七條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ診斷書ヲ添附シ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二十九條 第百二十六條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第一百二十八條 前條ノ届出ヲ爲シタル後胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母

ハ一个月内ニ醫師又ハ産婆ノ検索書ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要スヨリ一个月内ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三十條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第百二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三十一條 第百二十九條及ヒ前三條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十二節 推定家督相續人ノ廢除

第一百三十一條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者裁判ノ日ヨリ十日

タル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ證本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

居書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍

二 廉除ノ原因

三 裁判確定ノ日

第一百三十二条 廉除取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ證本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

居書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 廉除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍

二 裁判確定ノ日

第十三節 家督相續人ノ指定

第一百三十三条 家督相續人指定ノ居書ニハ指定セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十四条 家督相續人指定取消ノ居書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十五条 遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ

指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ證本ヲ居書ニ添附スルコトヲ要ス
第一百三十六条 指定家督相續人カ死亡シタルトキハ指定者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第十四節 入籍離籍及ヒ復籍拒絶

第一百三十七条 民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ家族ト爲ラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

三 原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第一百三十八条 民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ家族ト爲サ

ント欲スル者ハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
居書ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外入籍スヘキ者ノ氏名及ヒ出生ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十九條 戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ事項ヲ記載シテ其旨

記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
一 離籍セラルヘキ者ノ氏名

第一百四十條 離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨ

リ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

居書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 離籍者ノ氏名及ヒ本籍

二 離籍ノ原因及ヒ年月日

三 離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄

第一百四十一條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ

事項ヲ居書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名及ヒ本籍

二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名

三 復籍拒絶ノ原因

第一百四十二条 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ縁組若クハ婚姻ノ取消又ハ離縁若クハ離婚ノ居書ニ其場所ヲ記載セサリシトキハ一家創立ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

居書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 復籍拒絶者又ハ廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 復籍拒絶ノ原因及ヒ年月日

第十五節 廢家及ヒ絶家

第一百四十三条 廉家ヲ爲サント欲スル者ハ其者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ居書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但家督相續ニ因リ

テ戸主ト爲リタル者ニ非サルトキハ其旨ヲ居書ニ記載スルコトヲ要ス
第一百四十四条 絶家ノ家族ハ絶家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ旨出ツルコトヲ要ス

居書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 絶家ノ原因及ヒ年月日

第十六節 分家及ヒ廢絶家再興

第一百四十五条 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ事項ヲ居書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 本家ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト分家ノ戸主トノ續柄

二 民法第七百四十三條第二項ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其氏名及ヒ出生ノ年月日

(二二)

第三分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ本籍

三 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ氏名及ヒ本籍

第一百四十六条 廉絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ居書ニ記載シテ

其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 廢絶ノ年月日

三 廢絶家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四 再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第十七節 國籍ノ得喪

第一百四十七條 外國人カ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知

ス

キトキハ緣組又ハ婚姻ノ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百四十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知

ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

認知者カ父ナルトキハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百四十九條 歸化ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 歸化ヲ爲シタル者ノ原國籍

二 父母ノ氏名及ヒ國籍

三 許可ノ年月日

四 歸化ヲ爲シタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其

名、出生ノ年月日及ヒ其者ト歸化人トノ續柄
歸化ヲ爲シタル者ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルト
キハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百五十條 國籍喪失ノ届出ハ戸主又ハ家督相續人其事實ヲ知リタル日
ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 國籍喪失者ノ氏名及ヒ本籍

二 國籍喪失ノ原因及ヒ年月日

三 新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其國籍

第一百五十一條 國籍喪失者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其者カ陸海軍

ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スヘキ書面ヲ居

書ニ添附スルコトヲ要ス

第一百五十二條 國籍回復ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要

ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日

一 國籍回復前ニ有セシ國籍

二 許可ノ年月日

三 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アル

トキハ其名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第一百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第一百五十三條 氏名變更ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要

ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 许可ノ年月日

二 變更前ノ氏名

三 變更シタル氏名

四 許可ノ年月日

第五百五十四條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日内ニ

二 辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 辭令又ハ許可ノ年月日

第五百五十五條 該ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ

其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 該ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ

其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第十九節 轉籍及ヒ就籍

第一百五十八條 轉籍セント欲スルトキハ原籍及ヒ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸

主其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ

要ス

第一百五十九條 轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十條 本籍ヲ有セサル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁

判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第十八條ニ掲ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十一條 就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十二條 就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲サアルトキハ

戸主之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十三條 第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘ

キ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第五章 戸籍ノ訂正

第百六十四條 戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記

載ニ錯誤若クハ遗漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其

戸籍ノ存スル市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ

得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十五條 届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十六條 前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一个月内ニ其謄本ヲ添

附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六十七條 確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一个月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲

スコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滯ナク戸籍ノ訂正ヲ

請求スルコトヲ要ス

第百六十八條 第四十三條、第四十六條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十九條及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六章 抗告

第百六十九條 戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又

ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百七十條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲ス

第百七十一條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ送

付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス
第百七十二条 市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ
其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第百七十三条 裁判所ハ抗告ヲ理由ナレトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリ

トスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ

抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第七章 正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲サル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十七条 第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ届出又

ハ申請ヲ爲サル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十八条 市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二 戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三 正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條第二項ノ書類

ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

四 正當ノ理由ナクシテ戸籍若クハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ

第六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ

五 其他戸籍事件ニ付キ職務ヲ怠リタルトキ

第六十八條ノ規定ヲ準用ス

第百八十条 戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ

管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續

法ノ規定ヲ準用ス

第百八十二条 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十三条 本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ

記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十四条 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
附 則

第百八十五条 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十六条 本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ

記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第一百八十四條 舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラス本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ得

第一百八十五條 舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第一百八十六條 身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿並ニ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

〔相島勘次郎君〕海軍大臣ニ對スル質問ヲ打切ルト云ノアリマスガ海軍大臣ノ言ハレタ結果トシテ總理大臣ニ質問スルノハドウデスカト呼フ

○議長(大岡育造君) 唯今日程ニ入ッテ居リマス、此日程變更ニ付テ、ナケレバ許シ

○齊藤隆夫君 唯今川原君ノ動議ニ議事日程ノ變更デナクシテ、新タニ議事日程ヲ之ニ附加スルト云ノハドウ云フ譯ニアリマスカ

○議長(大岡育造君) 卽チ議事日程ノ變更ニナルノデアリマス

〔政府委員法學博士小山溫君〕

○政府委員(法學博士小山溫君) 司法大臣ハ差掛ツタ用事が出來マシテ、唯今司法省ノ方ニ參リマシタカラ、戸籍法外三件ニ付テ私ヨリ御紹介ヲ申上ゲマス、此戸籍法改正ハ行政整理ノ一端デゴザイマシテ、御承知ノ通り今日ニ於テハ、身分ニ關スル

簿冊が身分登記簿ト戸籍簿ト雙方ゴザイマシテ、身分登記簿ヘ記載シタル後、又戸籍簿ニ記載スルト云ノ重複ノ手續ニナツテ居リマス、其身分登記簿ヲ廢メテ戸籍簿ニ一切記載スルト云ノ手續ニシタノガ重ナルモノデアリマス、ソレカラ其序ニ事務簡捷ノタメニヨロク改正ヲ加ヘマシタガ、ソレハ小サイコトデゴザイマス、ソレカラ寄留法、明治三十八年法律第六十二號ト申シマスノハ戸主ニアラザル者ガ爵ヲ受ケラレタ場合ノ戸籍ノ規則デゴザイマス、ソレカラ四十三年法律第三十九號ト申シマスノハ、皇族ヨリ臣籍ニ入り或ハ婚嫁ニ依リ臣籍ヨリ皇族ニナツタ者ノ戸籍ニ關スルモノデ、皆戸籍法ノ改正ニ伴ヒタル改正デアルノデゴザイマス、宜シク御協賛アランコトヲ望

○高木益太郎君 政府委員ニ御尋ラシテ置キタイノアリマスガ、此戸籍法ノ改正ハ從來ノ身分登記簿ヲ廢スルト云コトデアッテ、丁度一個人デ云ヘバ系圖ヲ無クスト云フヤウナ問題デアル、餘程大切ナル事柄デアルト信ズルノアリマスガ、身分登記簿ト云フ

モノヲ全然廢止シテ、單ニ戸籍簿タケヲ以テ何等差支ナイト政府ハ認メルノデアルカ、モ

ウツノ御尋ハ今日ハ此戸籍ノ上ニ最モ弊害ノ多イノハ、人生ノ大禮アルトコロノ結果デアリマス、婚姻ノ届出ヲスルト云コトニ付テハ、非常ニ戸籍簿上頗ハシイ手續ヲ要スルノデ、從來ノ法規ニ據ルト云フト、假令戸籍ノ届出ヲシナイデモ、結婚ノ式ヲ舉ゲテ

近隣親族ガソレヲ夫婦ト認メレバ法律上夫婦タル效力ガアル、然ルニ法規ノ改正ノ結果、戸籍登録ヲシナケレバ假令ニ々九度ノ盃ヲシテ、近鄰親族ガ夫婦タルノ實アリマス

メテモ尙夫婦トシテ見ナイ、故ニ其間ニ産マレタ兒ハ私生兒アル、又其間ニ於テ他ノ男子ト婦人が私通フシテモ、姦通フ以テ論ジナイト云フヤウナ次第二ナツテ、如何ニモ我國ノ實際ノ習慣事情トハ遠ザカツテ居ルヤウナ結果ヲ見テ居ルノテアリマス(「委員會デ辯シタマヘ」ト呼フ者アリ)是ニ就テ政府當局ハ此重大ナル結婚ノ届出ノ問題ニ付テハ、

取調委員會ニ於テ如何ナル審議ヲシタノアルカ、又斯ウ云フ點ニ於テ實際ノ慣習ニ副ハナイヤウナ事柄ニ付テハ、ドウ云フヤウナ工合ニ便宜ナル處置ヲ採ッテ、實際ノ慣習ト法規トヲ調和スル方法ヲ取ツテ居ルノテアリマスカ、詳細アル 説明アランコトヲ望ミマス

〔政府委員法學博士小山溫君〕

○政府委員(法學博士小山溫君) 唯今ノ御尋ニ御答致シマス、先ツ第一ニハ身分登記簿ヲ廢シテ其身分ニ關スルコトハドウスルト云フ御尋ト考ヘマスガ、戸籍簿ニ一切今マデノ身分登記簿ニ記載致シマシタコトハ、記載スルコトニ致シマスルカラ、戸籍簿が身分登記簿ヲ兼ネタモノニナリマシテ、簿冊ハ一ツテゴザイマスガ、今マデノ身分登記簿ト戸籍簿合セタモノニナリマスカラ、差支ナシ意見デゴザイマス、ソレカラ婚姻ガ戸籍吏ニ届出ニ依テ效ヲ生ズルト云ノハ、民法ノ問題デゴザイマシテ、今回ノ戸籍法ノ改正ニハ關係ハゴザイマセヌト心得マスガ、其點ニ付テハ——民法ノ改正ニ付テハ、取調委員會ガドウシテ居ルカト云フ御話デゴザイマシガ、マダ何トモ致シテ居リマセス

〔高木益太郎君〕便宜ヲ圖ルカ圖ラヌカト云コトヲ聽イタノデス」ト呼フ

○議長(大岡育造君) 日程ノ第二ニ移リマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○川原茂輔君 唯今ハ第一ヨリ第八マデ一括シテ議題ニ供シテアリマスデスカ

○議長(大岡育造君) 一ダケデス

○川原茂輔君 サウシマスト、本案ハ議長指名十八名ノ特別委員ニ付託サレンコトヲ希望致シマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 川原君ノ動議ハ御異議ナキモノト認メマス、仍テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス——日程第三、明治三十八年法律第六十一號中改正法律案ノ一讀會ヲ開キマス

第三 明治三十八年法律第六十二号中改正法律案 第一讀會
(政府提出)

明治三十八年法律第六十二号中改正法律案

明治三十八年法律第六十二号中改正法律案

第二條中「之ヲ」ノ下ニ「市町村長ニ」ヲ加ヘ「一家創立地」ヲ「一家創立ノ場所」ニ、

「本籍地」ヲ「本籍」ニ「第百六十五條」ヲ「第百五十四條」ニ改メ「族稱」及「職業」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

市町村長カ前項ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ニ依リ戸籍記載ノ手續ヲ爲スヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○川原茂輔君 此日程第三モ前委員ニ付託セラレントヲ希望致シマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)ソレカラ議事ノ進行ニ付テモウツ申上グマスガ、此第九マテ同一委員ニ付託セラレントヲ希望致シマス

(「八マデタハマデダ」「マダ識ニ上ラヌ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 第八マデ……

○川原茂輔君 八デス、八デス

○議長(大岡育造君) 第九ハチヨット御待ヲ願ヒマス——唯今ノ第四ハ即チ前ノ十八名ノ委員ニ付託スル譯アリマスカ

○川原茂輔君 サウデス、前ノ委員デス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ガナケレバ川原君ノ動議ノ通り前ノ十八名ノ委員ニ付託スルニ決シマス、ソレカラ第五ノ寄留法案(第六モ同シ)ト呼フ者アリ)第七ノ明治四十三年法律第三十九號中改正法律案、是モ一括シテ議題ニ供シマス(「前委員ニト呼フ者アリ」)

第五 寄留法案(政府提出)

第一讀會

寄留法

第一條 九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ居住スル者ハ之ヲ寄留者ト

シ居出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス 本籍ナキ者

本籍分明ナラサル者及日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ

場所ニ居住スルモノ亦同シ

第二條 寄留ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

本籍法第三條第五條及第六條ノ規定ハ寄留ニ關スル事務ニ之ヲ準用ス

第三條 寄留ニ關スル届出、届出義務者、寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第四條 寄留ニ關スル届出ヲ怠リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ付之ヲ準用ス 戶籍法第百七十九條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 (政府提出) 明治四十三年法律第三十九號中改正法律案 第一讀會

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(大岡育造君) 是モ同シ前委員ニ付託スルニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ナシト認メマス

○高木益太郎君 此大切ナル法律ヲ審議スルノニ、各別ニ此重要ナル利害關係ヲ持テ審査ヲシナケレバナラヌノデアルノニ、何シテモ彼デモ一括タケテヤルト云フコトハ異議アリマスカラ、異議ヲ申シマス(「委員會ニヤレバ宜シイ」「歐羅巴アヘドウシマス」ト呼フ者アリ笑聲起ル)誰ダソンナコトヲ言フノハ、議會ヲ何ト思テ居ル……

○議長(大岡育造君) 御靜ニ願ヒマス——川原茂輔君ノ動議ノ如ク一括シテ總テ前委員ニ付託スルコトニ決シマシタ、高木君ノ異議ハアリマスケレドモ、定數ト認メマス

——日程第九、輸出入植物取締法案ノ第一讀會ヲ開キマス——山本農商務大臣

第一條 輸出入植物取締法案(政府提出)

第一讀會

寄留法

第一條 九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ居住スル者ハ之ヲ寄留者ト

シ居出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス 本籍ナキ者

本籍分明ナラサル者及日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ

場所ニ居住スルモノ亦同シ

第二條 寄留ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

本籍法第三條第五條及第六條ノ規定ハ寄留ニ關スル事務ニ之ヲ準用ス

第一條 植物ヲ輸入移入輸出又ハ移出スル者ハ其ノ植物及其ノ容器包裝ニ使用シタル物ニ付植物検査官吏ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ検査ハ取締上必要ナシト認ムル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依

リ之ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル物ハ之ヲ收受スルコトヲ得

スルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキ植物ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 植物検査官吏ハ前條ノ検査ヲ爲ス場合ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セル虞アリト認ムルトキハ前條ニ掲ケサル物ニ付テモ検査ヲ爲スコトヲ得

第三條 病菌又ハ害蟲ハ主務大臣ノ許可ヲ得且植物検査官吏ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第四條 検査ハ命令ヲ以テ指定スル海港ニ於テ之ヲ行フ

検査ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 植物検査官吏ハ検査ノ結果病菌又ハ害蟲附著スト認メタル植物其ノ他ノ物ヲ消毒又ハ焼棄シ、其ノ輸入移入輸出又ハ移出ヲ禁止シ其ノ他

必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ當事者ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第六條 植物検査官吏ハ本法ノ検査ヲ受クヘキ植物其ノ他ノ物ヲ積載シ又ハ積載セル疑アル船舶ニ臨檢スルコトヲ得

植物検査官吏ハ検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ前項ノ物ノ陸揚又ハ轉載ヲ停止スルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ病菌又ハ害蟲ノ傳播ヲ防止スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ特定ノ地ヨリ發送シ又ハ之ヲ經由シタル植物又ハ病菌若ハ害蟲ノ附著セル虞アル物ノ輸入移入又ハ收受ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第八條 植物検査官吏、稅關官吏又ハ警察官吏本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スル者アリト認ムルトキハ臨檢尋問搜索若ハ差押ヲ爲シ又ハ其ノ違反ニ係ル物ヲ消毒若ハ焼棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スルコトヲ得

臨檢尋問搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セラレタ

第九條 第五條及前條第一項ノ處分ニ必要ナル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當事者ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十條 本法ニ於テ病菌又ハ害蟲ト稱スルハ植物ヲ害スル菌類又ハ蟲類ヲ謂フ

病菌又ハ害蟲ニ非サル動植物ト雖主務大臣ニ於テ植物ヲ害シ又ハ害スル虞アリト認ムルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ病菌又ハ害蟲ト看做スルニ各號ノ一一該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一 詐偽ノ行爲ヲ以テ検査ヲ免レタル者

二 検査ヲ受クルニ當リ詐偽ノ行爲アリタル者

三 第五條但書ノ場合ニ於テ許可ノ條件ニ違反シタル者

四 第六條ノ停止又ハ第七條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタル者

第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

二 許可又ハ検査ヲ受ケシシテ病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入シタル者

三 第三條ノ許可ノ條件ニ違反シタル者

第十三條 本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ臨檢搜索ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 輸入者移入者輸出者移出者又ハ收受者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ其ノ業務ニ關スル行為ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 輸入者移入者輸出者移出者收受者又ハ船長ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十六條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第七條及其ノ罰則ニ關スル規定ハ全部ノ施行ニ先チ之ヲ施行スルコトヲ得

附 則

(農商務大臣山本達雄君登壇)

○農商務大臣(山本達雄君) 植物ノ病菌害蟲ニ付キマシテ、取締法デゴザリマスルが、是マテ内地ニ於キマシテハ蟲害ノ驅除法又ハ森林法ニ據リマシテ十分ニ其蟲害ノ驅除ノ厲行ヲ致シテ居ルノデゴザリマス、併ナガラ外國ヨリ輸入致シマスル植物ノ害蟲害蟲ノ検査ニ於キマシテハ蟲害ノ驅除法又ハ森林法ニ據リマシテ十分ニ其蟲害ノ驅除ノ厲行ヲ致シテ居ルノデゴザリマス、從ヒマシテ是マテ病菌害蟲ガ外國ヨリ輸入シマスルコトが少ナクナインデゴザリマス、御承知ノ如ク葡萄ニ於テ「ブロキセラ」或ハ桃ニ於テ炭疽病トカ、又ハ柑橘類ニ於キマシテ諸種ノ貝殻蟲ノ如キモノガ參リマシテ、イロイロ植物ニ害ヲ及ボシテ居ルノデゴザリマス、又輸入ニ於テハサウデゴザリマスルガ、輸出ノ植物ニ至リマシテハ、今日ハ北米合衆國ノ如キ最モ我國ヨリ輸出シテ居ル場所ニ於キマシテハ、昨年ノ七月ヨリ植物ヲ輸出スル其中央官憲ノ検疫ノ證明ガナケレバ、一切輸入禁止スルト云フ如キコトニ相成シテ居リマス、其他豪洲ナドニ於キマシテモヤハリ輸出ヲ禁セラレテ居ルノデゴザリマス、ソレデアリマスル故ニ輸入ニ於テモ輸入ニ於テモ、此輸出ノ検査ノ法ヲ設ケナケレバ、他日輸出ヲ獎勵スル上ニ於キマシテモ、亦植物ヲ輸入スル上ニ於キマシテモ、大ナル害ノアルコトデゴザリマスカラシテ、今日輸出入ニ於キマシテ検査ノ法ヲ設ケタイト云フニ外ナラヌノデゴザリマス、何卒御協賛アランコ

○議長(大岡育造君) 日程第十、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○川原茂輔君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレムコトヲ希望致シマス

(「贊成々々ト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 川原茂輔君ノ動議ニ反対ガナイヤウデアリマスカラ、右ノ動議ノ如ク決シマシタ、即チ議長指名九名ノ委員ニ付託シマス——日程第十一、私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案ノ第二讀會ヲ開キマス

私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律

第二讀會

案(政府提出)

○川原茂輔君 本問題ニ付テハ、政府ニ一言ノ質問ヲ致シテ決定ラシタイト思フコトガアリマス、第一條ノ中ニ必要ナル建物ト云フ中ニハ、其ノ學校ト同一區域内ニアル校長、舍頭、舍監、教職員ノ校舎、次ニハ學生俱樂部、教職員俱樂部、次ニ寄宿舍附屬ノ附屬屋、浴場、理髮所、消防具入建物、以上ノ數箇ノモノハ其必要ナル建物ノ中ニ包含シテ居ルコト、信シマスガ、政府ノ御意見ヲ此ノ所ニ於テ言明セラレンコトヲ希望シマス

○議長(大岡育造君) 政府委員ハ出席シテ居リマセス

○川原茂輔君 サウ致シマスト第十一第十二ト云フモノハ後廻シニセラレンコトヲ希望シマス

(「贊成々々ト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 日程第十一第十二ハ、政府委員缺席ニ付キ後廻シト致シテ

御異議アリマセヌカ

(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ今日變更ノ上加ヘラレタル日程第

十三、織物消費稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、岡部次郎君——是モ提

出者缺席ニ付延バソノ外ナイト思ヒマス、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ延期シマス——日程第十四、織物

消費稅法中改正法律案、長谷場純孝君外六名提出、第一讀會ヲ開キマス——小

林源藏君

(「拍手起ル」「贊成々々ト呼フ者アリ」)

第一讀會

織物消費稅法中改正法律案

(「拍手起ル」「贊成々々ト呼フ者アリ」)

第十三條ノ二 織物ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ニ依リ組織セラレタル組合ニ對シ政
府ハ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵稅事務ノ補助ヲ爲スヘ

(「コトヲ命スルコトヲ得

ニ對シ賦課シタル稅額百分ノ一以内ノ交付金ヲ下付ス

(「コトヲ命スルコトヲ得

ニ對シ賦課シタル稅額百分ノ一以内ノ交付金ヲ下付ス

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔小林源藏君登壇〕

○小林源藏君 本案提出ノ贊成者トシテ私ハ此ニ其理由ヲ説明致シマス、織物消費

稅ニ關スル議論ハ數年來アルノデアリマスルガ、主トシテ織物消費稅ノ從價一割ハ高キニ失スルト云フ議論ト、織物消費稅徵收ノ手續が煩瑣ニ失スルト云フ此ニツノ議論ガ常ニアルノデアリマス、曩ニ否決セラレタル織物消費稅廢止案ノ如キ、或ハ日程ニ上ツテ

案ハ主トシテ織物消費稅徵收手續ノ煩瑣ナルコトヲ省カント欲スルノ趣旨ニ出デタルモノデアリマス、今日此織物消費稅が實行セラレテ居ル有様ヲ見マスルノニ、從價一割、

價ニ從ダテ一割ヲ課スル其價ヲ如何ニシテ定ムルカト云フ點ニ於テ、非常ナル煩雜ガアルノ

デアリマス、ソコデ現ニ今日織物製造者若クハ販賣業者が作ダテ居ル組合ト、收稅官吏が協定シテ其價ヲ定ムルト云フヤウナ方法モ執ダテ居リマス、單ニ收稅官吏ノ意見ノミニ任セテ課稅スベキ價格ヲ定ムルト致シマスルト、往々收稅官吏ト織物製造業者ノ間ニ於

テ、意見ヲ異ニスルコトガアルノデアリマス、其他納稅濟ノ消印ヲ附ケルガタメニイロノ

煩雜ナル手續等モアリマス、又急ニ販賣ノタメニ検査ヲ受ケテ納稅ヲセント欲シテモ、收

稅官吏ニ時間ノ制限ガアリマスルノテ、急速其間ニ合ハナイト云フヤウナ不都合モアルノ

デアリマス、ソコデツレ等ノ不便ヲ省カンガタメニ織物ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ニ依テ組織セラレタル組合ニ對シテ、政府が徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ、又ハ徵稅ノ幫

助ヲ爲サンシムルト云フコトヲ規定シタイト思フノデアリマス、斯ノ如クニ致シマスルト、織

物ノ製造又ハ販賣ヲ業トシテ居ル組合ガ、其徵收ニ參與致スルノデアリマスルカラシテ、

收稅官吏ト織物業者トノ間ニ意思ノ疎通が出來ルバカリデナク、検査場等ノ設備ヲモ

組合ニ命ズルコトが出來ルノデアリマスカラシテ、極メテ簡便ニシテ從來不便アリシトヨロノ

煩雜ナル手續ヲ省クコトが出來ルト信ズルノデアリマス、其結果ト致シマシテ組合ニ多少ノ

費用ヲ必要トスルコトハ、明カナ事實デアリマスノデ、其組合ニ於テ取扱タルトコロノ稅

金ノ百分ノ一以内ヲ、組合ニ對シテ交付シヤウト云フノデアリマス、此百分ノ一以内ハ

果シテ實際ノ費用ニ適スルノデアルカ否ハ、將來ノ經驗ニ待ダネバナラヌコトデアリマス

ルガ、先以テ百分ノ一位ヲ交付シタナラ間ニ合ハウト云フ考ヲ持ダテ居ルノデアリマス、唯

此以内ト申シマスルト、當局者ト官吏ト營業者トノ間ニ將來疑問ヲ生ズルノ虞ガアリマ

スルノデ、委員會ニ付セラレタラバ此以内ノ文字ニ付テハ、篤御審議ヲ望ムノデアリマス、

マス、而シテ今申上ゲマシタ如ク、本案實行ノ結果トシテ多少ノ金額ヲ要スルノデアリマス、

マスルカラシテ、此改正案ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行セント欲スルノデアリマス、

○議長(大岡育造君) 川原茂輔君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付

託スベキ委員ノ選舉

○議長(大岡育造君) 川原茂輔君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付

託スベキ委員ノ選舉

託スルコトニ決シマシタ——日程第十五、織物消費稅法中改正法律案、武富時敏君外一名提出、第一讀會ヲ開キマス
外一名提出、第一讀會ヲ開キマス

織物消費稅法中改正法律案
織物消費稅法中改正法律案
第二條中「百分ノ十」ヲ「百分ノ七」ニ改ム

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○加藤政之助君 議長

○議長(大岡育造君) 加藤政之助君

(加藤政之助君登壇)

(「ドウガサット願ヒマスヨ」ト呼フ者アリ)

○加藤政之助君 諸君、此織物消費稅法中改正法律案ヲ吾ミカラ提出致シテ置キマシタ(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)ソレテ其意味ヲ簡單ニ要領ダケヲ申上ゲテ諸君ノ御賛同ヲ乞ハウト思ヒマス(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)吾ミノ提出致シマシタ織物消費稅法中改正法律案ノ要旨ハ、第二條中ニ「百分ノ十」トアリマスノヲ「七」ト改メルノデアリマス、ソレデ其要領ヲ申上ゲマスルト云フト、織物ハ諸君御承知ノ通り、人生必要ノ衣食住ト云フニ大必要品中ノ首位ヲ占メテ居ル一デアリマス、而シテ其消費稅ノ過重ニ失スルト否トハ、國民中流以下ノ人々ニ多大ナ影響ヲ及ボシマスルモノニアリマス、殊ニ營業者ニ取リマシテハ、先刻小林君カラ演説セラレマシタ通り、極メテ此稅が煩瑣ナ徵收ノ仕方ニアリマシテ、非常ナ手續ヲ要スルノニアリマス、ソコデ此織物ト云フ事業ハ我日本ノ生産中極メテ重要ナル物品ノ一デアリマス、テ經濟上ノ原則カラ言ヒマスルト云フト、此織物ト云フ事業ノ盛衰ハ其織物業自身ダケノ範圍ニ止マルモノニアリマセバ、或重要ナ國家ノ生産事業ガ盛ニナリマスルト云フコトニナリマスルト、隨シテ其餘響ハ他ノ總テノ事業ニ影響スルモノニアリマス、例ヘバ經濟界ノ有様ハ此車輪ノ如キモノニアリマス、一ツノ重要物産ガ盛ニナレバ、其結果トシテ他ノ事業ノ繁盛ヲモ招クトコロノモノニアリマス、故ニ此織物ト云フ事業——織物業ニ關係シテ居ル者ノ利益、織物ヲ消費スル者ノ利害ト云フ限局シタ意味ニ見ルコトハ、經濟上極メテ間違タル觀察ト言ハナケレバナラヌ、而シテ茲ニ極ク手短ニ此織物業ノ盛衰が國家ノ財政經濟ニ至大ナル影響ヲ及ボスト云フコトヲ、諸君ノ前ニ申上ゲテ見タノデアル(「分ッタ」又ハ「分ッテ居ルヨ」ト呼フ者アリ)イヤ分ッテ居ルト言ウテモ一通り言ハナケレバナラヌ、諸君ハ人ノ言論ヲサウ遮ルモノニアハナイ、極ク簡單ニ意味ダケヲ言フノデアル、ソレ位開ク雅量ヲ持タナケレバナラヌ(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)イヤ簡単デアリマス、要領ダケヲ(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 静肅ニ願ヒマス

○加藤政之助君 (「謹聽々々」ト呼フ者アリ)
此歐羅巴大陸ニ彼ノ奈破翁戰爭ノアツタコトハ諸君モ御承知

デアリマセウ、其當時英吉利王國ニ於テハ此軍費ヲ如何ニシテ支ヘタノデアリマスカ、ソレハ殆ド英吉利王國デハ其當時國民ノ歲入ノ全部ヲ三箇年間此軍費ノタメニ費シテノ大部分ヲ爲シテ居ルト云フコトハ、當時ノ歴史ニ明瞭ニ書イテアルノデアル(「了解」下呼フ者アリ)吾ミ國民ハ此實例ヲ深ク參照スルコトが必要アルト思ヒマス、殊ニ我日本申シマスルト云フト、此織物ノ事業、紡績ノ事業、此一大事業が當時偉大ナル發達ヲ致シテ、此一大事業ノ發達ヲシタ結果、英吉利ニ這入シトコロノ金が此軍費ヲ支フルノ大部分ヲ爲シテ居ルト云フ考ヲ持タナケレバ、日本ノ財政經濟ヲ順調ニ復セシムルト云フコトハ出來ヌモノデアルト考ヘル、而シテ此織物稅ノ重イト輕イト申シマスルコトハ、是ハ成程戻稅ト云フモノガアリマスカラ、此直ニ輸出ニハ直接ニ影響ハアリマセヌヤウデアリマス、併ナガラ輸入ニハ偉大ノ影響ガアルデアラウト思フ、若シ日本ノ織物稅が減セラレテ、織物が安ク國民ニ供給セラル、ト云フコトニナリマスレバ、外國品ノ高イモノヲ買フヨリバ、日本テ出來ル安イ織物ヲ使フト云フコトニナル、從シテ輸入ヲ減ズル結果ヲ生ズルコトハ當然デアリマス、殊ニ當業者ニ餘裕が出來レバ、當業者ハ此織物ニ付テ種々様々ノ工夫ヲ凝ラスト云フ餘地が出來ル、從シテ此織物業ノ發達ヲ助ケル、織物業が發達ヲシテ改良ヲスル、此改良シタ品物ハ外國ニ輸出ヲ導クト云フコトハ又當然ナル結果デアリマス、斯様ナ次第テアリマスルカラ、委シク申上ゲマスレバ種々ノ理窟ハアリマスケレドモ、此日本ノ織物業ニ今ノ煩瑣ナル過重ナル此稅ヲ輕減シテ、サウシテ織物ヲ廉く供給スル、此織物ノ改良ヲ圖ル、而シテ此織物ノ發達ヲシタ結果ヲ以テ、我日本現時ノ財政經濟ノ不如意ナル一端ヲ補フト云フコトニスルコトハ、吾ミ議場ニ立ツ者ノ最モ努メナケレバナラヌ事柄デアルト感ズルノデアリマス(「同感」ト呼フ者アリ)啻ニ私ハ今夕要領ダケヲ申上ゲテサウシテ此案ヲ委員ニ付託スルコトヲ希望スル而シテ本論ニ於テ審カニ……(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○相島勘次郎君 質問ガアリマス

○議長(大岡育造君) 相島勘次郎君

○相島勘次郎君 織物消費稅ヲ減稅スルト云フ意味ハ大抵能ク分リマシタガ、加藤君ヤ島田君ハ年來織物稅全廢ヲ唱ヘラレタ、其全廢ヲ廢メテ減稅ト云フコトニナッタ、此議論ニ就テハ少シモ辯明ガアリマセヌが、ソレヲ私共伺ヒタイト思ヒマス(「其通り其通り」答辯ノ必要ナシ「答辯スベシ」「登壇々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 質問ハ濟ンダノデアリマス、答ガアリマスカ

○加藤政之助君 答辯ノ必要ハナイト思フ (「必要ガアリマス」「登壇々々」「謹聽々々」ト呼フ者アリ)

○川原茂輔君 唯今ノ加藤君ノ御説明ニナッタ第十五ノ日程ハ、前委員ニ付託サレシコトヲ希望致シマス

○議長(大岡育造君) 御異議がナイニ依シテ、本案ハ前ノ委員ニ付託スルコトニナリ

通行税法中改正法律案(長谷場純等外六名提出)

第一讀會

通行税法中改正法律案

第一條ノ二

學生、兵卒、労働者ニシテ割引乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ

於テハ其ノ乗船車賃ノ割引歩合ニ準シテ通行税ヲ低減ス但シ貸切、多人

數、回數又ハ定期乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ稅額一錢未滿ナルトキハ之ヲ徵收セス

第五號 汽車、電車、汽船營業者前條ニ依リ徵收スヘキ通行税ヲ徵收セサル

トキ又ハ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ之ヲ其ノ

營業者ヨリ徵收ス

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(大岡育造君) 時間ノ六時ニ迫ルニハ、尤モ間モアリマスケレドモ延長致シマス

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 横田千之助君

(横田千之助君登壇)

○横田千之助君 通行税法中改正法律案、提出ノ主意ヲ極ク簡単ニ述べマス、改正ノ要點ハ通行税法ノ第一條ノ二ト云フ條項ヲ加ヘマシテ、割引乗車券ノ契約ヲナシタル人ニ對シテ、即チ其内容ヲ申上ゲマスレバ、學生兵卒労働者ト云フ此階級ニ向

テ、通行税ヲヤハリ半減ラヌルト云フノガ主意デス、而シテ其第二項ニ前項ノ場合ニ於テ稅額一錢未滿ナルトキハ之ヲ徵收セズト云フ規定ガアリマス、此規定ニ依テ交通ノコトヲ扱シテ居ル會社ト割引ノ契約ヲシタ人々ニシテ、其稅額ガ一錢アル場合ハ半減シテ五厘ニナル、而シテ此五厘ノ稅額ト云フモノハ打切シテ徵收シナイト云フトコロノ待遇ヲシヤウト云フノガ、此法案ノ精神デアリマス、改正ノ第一點ハ第五條ノ中ニ通行税ヲ徵收セザルトキハト云フ文字ガ書イテアル、是ハ嘗テ或ル電車會社ガ、故意カ又ハ過失ニ依ッテ徵收ヲセザリシ場合ガアル、此場合ニ於テ現行ノ法律ニ於テハ、怠納處分ハ納稅者タル通行人ニ向テ追徵スベキモノデアルカドウカ、或ハ此上納ヲ取扱シテ居ルトコロノ會社ニ向テ要求スベキモノデアルカドウカ、法律上非常ニヤカマシキ疑義ガ生ジタルトコロノ事案ガアツタノデアリマス、此ニ於テ此疑問ヲ避クトコロノ用意ノ爲メニ、第五條ニ於テ通行税ヲ徵收セザル時ト雖モ、營業者即チ交通ヲ扱シテ居ルトコロノ營業者ハ、政府ニ對シテ通行税納付ノ義務ヲ有スルト云フコトヲ明確ニシテ、此權利義務ノ關係ヲ將來紛糾無カラシムルコトヲ期シタノデアリマス、而シテ其第二項ニ通行税ヲ徵收納付シタル營業者ニ對シテハ稅金百分ノ一二相當スル金額ヲ交付ス是ハ今マデ無手數料ヲ營業者ニ租稅徵收ノコトヲ扱ハセタノデアリマスガ、國家ト雖モ人ノ勞力ヲ唯使フコトハ出來ヌト云フ理窟ノ上カラ、此條項ヲ置イタノデアリマス、要スルニ通行税全廢ニ就テハ

我黨ノ代議士ガ、其議案ノ日程ハ上リシ當時ニ於テ反復其荒唐無稽ナルコトヲ論破シタルトコロノ如シデアリマス、而シテ我黨ノ此議案ヲ提出シタル所以ノモノハ、此程度ニアルコトヲ深く識認シテ此提案ヲナシタルモノニアリマス、願クバ諸君御慎重ノ御表決アランコトヲ希望致シマス

○高木益太郎君 提出者ニ質問スベキコトガアリマス、其第一ハ前年政友會ノ諸君ガ、非立憲ナリト攻撃シテ居ル桂内閣スラモ通行税ノ負擔ニ就テハ、市又ハ市ニ準スベキ區域ニ於テ是が全廢スベキ旨ノ法律案ヲ提出シタノデアリマス、非立憲ナリトスル桂内閣スラモ全廢案ヲ出サレタノデアル、立憲政黨ナリト唱ヘテ居ルトコロノ政友會ハ、何故ニ此ノ如キ姑息ナル(ソレハ政府ニ質問スベシ)ト呼フ者アリ)通行税ヲ輕減スルト云フヤウナ頗ル姑息ナル改正案ヲ提出シタノハ如何ナル次第アルカ、又第二ニ御尋シテ置キタコトハ、此改正案ノ第一條ニ於テハ(「政府ニ質問シ給ヘ」「ソシナ質問ハ間違シテ居ル」ト呼フ者アリ)政府ニモ宜シイ、強チ横田君ニ限ル譯デハナイ、第一條ノ一、學生兵卒労働者ト制限ヲシテアルノアリマス、此學生ト云フノハ學生タルト否ハ何ニ依テ標準ヲ立て、労働者タルト否トハ何ニ依テ標準ヲ立てルノデアレカ、例ヘバ一日ニ屢々電車ニ乗ル丁稚小僧ノ如キハ、之ヲ労働者ノ中ニ入レルカ入レナイカ、是等ノコトニ付テ其區別標準ハドウ云フ事實ヲ臺ニシテ、是ガ鑑別ラスルノデアルカ、其點ニ付テ詳細ナル答辯ヲ求ムルノテアリマス

○横田千之助君 高木君ノ前段ノ質問ハ、本案ヲ決スルニ付テ大ナル影響ハナイト思ヒマスガ、序ニヨドト一言致シマス、立憲非立憲ノ問題ハ、憲法政治ノ根本ノ問題デアリマス、而シテ稅額ノ全廢ナルヤ輕減ナルヤハ財政計畫デアリマス、此點ニ付テハ分當ナル區別アランコトヲ頭腦明晰ナル高木君ニ御望ミラスル、而シテ第二ノ學生労働者ト云フモノニ付テハ、如何ナル標準ニ依テ其基礎ヲ定メルカト云フ御質問、最モ是ハ適當ナル質問デアリマス、本案ヲ決スル上ニ此高木君ノ御質問ハ、用意深キ御質問ト深ク傾聽致シマシタ、是ハ此處ニアリマス通り通行割引乗車券ノ契約ヲ爲シタル場合ニト云フノデアリマシテ、此労働者ト兵卒又ハ學生トノ間ノ割引乗車券ノ契約ノ、事實成立シト云フコトヲ前提シテノ規則デアリマスカラ、此點ニ付キマシテハ營業者が當該行政廳ノ相當ナル監督ノ下ニ、敢テ然ルベキ規定ヲ設ケテ貰ヒタイ、是等ノ細カイコトニシタ考デアリマス、時刻モ移リマシテゴザイマスカラ、ドウカ細密ノ御質問ハ委員會ニ讓ラレムコトヲ御願ヒ致シマス

○川原茂輔君 本案ハ前委員ニ付託セラレムコトヲ希望致シマス

(「贊成々々」と呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 川原君ノ動議ニ御異議ハナイト認メマス、依テ本案ハ前ノ委員ニ付託スルコトニ決定シタ、日程第十七、通行税法中改正法律案、武富時敏君外一名提出第一讀會

通行稅法中改正法律案(武富時敏君外一名提出) 第一讀會
通行稅法中改正法律案

通行稅法中左ノ通改正ス

第一條中五十哩又ハ五十海里未滿ノ項ヲ削ル

第二條ニ左ノ一項ヲ追加ス

三五十哩又ハ五十海里未滿ノ乘車又ハ乗船ヲ爲ストキ

附 則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(福田又一君登壇)

○議長(大岡育造君) 發言ヲ求メテカラ御出ヲ願ヒマス

○議長(大岡育造君) 福田又一君

税ヲ取ラレル、隨分奇態ナ現象アルト私共思ヒマス、殊ニ輕便鐵道ノ如キハ長イ距離ガナ、大概十哩内外テ停車場ガ十箇所モアルト、十哩内外ノ間テ一錢ツ、取ラレシテ否決致サレマシタカラ、少クトモ差當リノ時弊ヲ救フグケモ致シタイ考ヘマシテ此案ヲ提出ヲ致シタノデアリマス、私共ノ提出ヲ致シマシタ簡條ハ第一條中ノ五
十哩又ハ五十海里未滿ノ一等ハ金五錢、二等ハ金二錢、三等ハ金一錢ト云フ、先ア
之ヲ廢シタイト云フ考デアリマス、サウ致シマシテ第三條ノ左ノ場合ニ於テ通行稅ヲ課セズ
ト云フ中ノ三項目ノ「五十哩又ハ五十海里未滿ノ乗車又ハ乗船ヲ爲ストキ」云ニ通行
稅ヲ課セヌト云フコトニ致シタイ考デアリマス、極ク簡單ニ此趣意ヲ申上ゲテ置キマスレバ、
曾テ鐵道ノ國有フル時分ニモ、私立ノ會社ニ於キマシテ利益ヲ目的トスルト云フコト
ガ主ニナリマスカラシテ、ソコテ私立會社ノ鐵道ヲ國有ニスルト云フコトノ際ニモ、吾ニニ
モ成ベク交通ハ輕易ニセシムルト云フ趣意デアツタノデアリマス、又輕便鐵道ノ如キニ至
リマシテハ、一面ニハ補助ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、一方ニ補助ヲ與ヘテ置イテ、一方
カラ稅金ヲ取ルコトハ頗ル矛盾シタト云フ事柄ハ、深ク論及スルマドモナイト思ヒマス、
政府ハ頻リニ事務ノ簡捷トカ或ハ政費ノ節減トカ申シマスガ、一方ニハ稅ヲ取ルニモヤ
ハリ手數が掛ル、一方ニ補助ヲ與ヘルニモ手數が掛ル、甚ダ矛盾シタ是ハ政策デアリマ
ス、故ニ短距離ノモノニ付キマシテハ、是非此場合稅金ヲ廢止ヲシタイト云フ考デアリ
マス、ソレカラ一言私ハ此東京市ノコトニ關係シテ申上ゲテ置キタイト思ヒマスノハ、餘
程注意致シマスト云フト奇態ナ現象ヲ現ハシテ居リマス、曾テ東京市ノ電車賃ノ如キハ
全廢案が出タコトガアリマスガ、是ハ今日ハ存シテ居リマスケレドモ、御承知ノ東京市ア
クリテ施療病院ガ立ツテ居リマス、此施療病院ニ行ク時分ニハヤハリ施療病院ニ行ク者
ニアリマスカラ、車ニ乗ルコトハ出來ヌ、電車ニ乗ッテ行ク、病院ニ行クテ只施療シテ貰フ
ケレドモ、病院ニ行クマテノ間電車ニ乗レバ電車賃テ稅ヲ取ラレル、私ハ短距離ニ於テ
稅ヲ課スル事柄ハ、貧困者ニ對シテ非常ナ不幸デアラウト思フノデアリマス、先程勞動
者ニ對シテ稅金廢止が出て居リマスケレドモ、勞動者ハマダ勞動者デ、勤イテ居ルノデ宜
シウゴザイマスケレドモ、勞動ノ出來ヌ貪乏人ガイクラモ居ル、病院ニ行クニ電車ニ乗ル

地租條例中改正法律案(關直彦君外二名提出) 第一讀會
地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第十二條第一項第二號中「第三期翌年三月一日ヨリ同四月三十日限」ヲ「第二期翌年三月三十日限」ニ
改ム

附 則

本法ハ大正二年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○野添宗三君 提案者ニ代ヅテ説明ヲ致シタイ、本案ハ武富時敏君片岡直彦君ヨリ
裏ニ提出セラレマシタ案ト内容ハ同一ニアリマス、而シテ提案ノ理由ハ提出ノ理由書ニ
明記シタ通りアリマス

○川原茂輔君 本案ハ前委員、即チ二土忠造君ノ委員長タリシ委員ニ付託セラレム
コトヲ希望致シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 川原君ノ動議ニ御異議ナキモノト認メマス、依テ本案ハ川原
君ノ動議ノ如ク決定シマシタ、日程第十九、國稅徵收法中改正法律案第一讀會ヲ
開キマス、三土忠造君

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告
知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(三土忠造君登壇)

國稅徵收法中改正法律案(長谷場純孝君外六名提出) 第一讀會
國稅徵收法中改正法律案

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告
知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(三土忠造君登壇)

○三土忠造君 本案ハ市町村ノ交付金ヲ一百三十六万圓程増スト云フ案アリマ

スルカラシテ、市町村ニ取リマシテハ餘程重大ナ案デアリマスカラ、詳細ニ提案ノ理由ヲ説明シヤウト思ヒマス、ケレドモ餘程時刻モ遅レテ居リマスカラ詳細ハ委員會ニ譲ルコトニ致シマシテ、極ク簡單ニ説明致シマス、丁度本案ト同様ナル案ガ渡邊修君外數名ノ諸君ヨリ収集ニ御提出ニナシテ居リマスガ、彼ト是トハ「目的が相均シクシテ、方法が少シク違フノデアリマス、即チ渡邊君外數名ノ諸君ノ御提案ハ、他ノ國稅ノ手數料ハ百分ノ四、地租ガ千分ノ十七ニナシテ居ルノヲ、地租モ他ノ國稅同様百分ノ四ニシヤウト云フノデアリマス、其方法ニ依リマスト云フ税ト税トノ間ノ均衡ハ多少得マスケレドモ、市ト町村トノ間ノ均衡ハヤハリ十分ニ保ダレマセヌ、又税ト税トノ間ノ均衡モ十分ニアリマセヌ、依テ各税ノ間ノ均衡ヲ成ベク近クスルト云フコトニ致シマスト云フト、二ツノ標準デヤリタイノデアリマス、即チ金高ニ依テ手數料ヲ交付スルト云フコトト、ソレカラ納稅告知書ノ數ニ依テ手數料ヲ交付スル、此一ツノ標準ヲ採リタイト思ヒマスガ、是が即チ本案ノ骨子デアリマス、ソレカラ金高ヲ百分ノ一ト致シマシテ、ソレカラ納稅告知書一枚四錢ト致シマスト、一番公平ニ出來マスノデアリマスガ、サウ致シマスト市ニ是迄交付サレテ居ルトコロノ金高ガ一十二万圓程減ルコトニナリマス、是デハ市ノ財源ニ缺陥ラ生ジマスカラ、既得權ヲ尊重致シマシテ、多少理想ニハ遠カリマスケレドモ金高百分ノ二、ソレカラ納稅告知書一枚ニ付金一錢、斯ウ云フコトニ致シマスト、市ニ於テモ多少金高が増シマスルシ、同時ニ町村ニ於テモ餘程増シマス、兩方合セマシテ二百三十六万圓増スト云フ案デアリマス、本案が通リマスルト市町村ノ財源が豊富ニナツテ、自治團體が鞏固ニナリマスルトコロノ名案デゴザイマスカラ、ドウカ諸君ノ御贊成ヲ得シコトヲ希望致シマス

〔拍手起ル「贊成」ト呼フ者アリ〕

○川原茂輔君 本案ハ前ノ委員、即チ根岸君ノ委員長タリシ 委員ニ付託サレンコトヲ希望致シマス
〔贊成々々ノ聲起ル〕

○議長(大岡育造君) 川原君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(大岡育造君) 御異議ナイト認メマス、川原君動議ノ如ク決シマシタ
○川原茂輔君 大藏大臣が見エマシタヤウデアリマスカラ、前ニ中止ラ致シマシタ十一、
○議長(大岡育造君) 然ラバ日程ノ第十一及第十二ヲ日程ニ上セテ審議スルコトニ致シマス

第十一 私立學校及公益法人ノ用地免
租ニ關スル法律案(政府提出) 第二讀會ノ續(確定議)
第十二 私立學校用地免租ニ關スル法律案(久保
通猷君提出) 第一讀會ノ續

○川原茂輔君 先刻辯ジマシタケレドモ、同ジコトヲモウ一度辯ジナケレバナリマセヌカ、此第二條中「必要ナル附屬建物」トアリマス中ニハ、同ジ學校ノ區域内ニ存在スル校長、社頭、舍監、教職員ノ校舎、次ニ學生俱樂部、教職員俱樂部、寄宿舎附屬ノ賄部屋、浴場、理髮場、消防具入建物、以上ノモノハ「此必要ナル附屬建物」ノ中ニ當然包含シテ居ルモノト信ジマスガ、政府ノ御意見ヲ此際ニ於テ御明言アランコトヲ希望シマス

○議長(大岡育造君) 菅原政府委員
〔政府委員菅原通敬君登壇〕

○政府委員(菅原通敬君) 唯今御舉ゲニナリマシタ如キ建物ノ敷地ニ就キマンシテハ、第二條ニ依テ免除スル考ヲ持ッテ居リマス
〔明瞭」ト呼フ者アリ〕

○川原茂輔君 本案ハ三讀會ヲ省略シテ可決確定アランコトヲ希望致シマス
○議長(大岡育造君) 御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(大岡育造君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ川原君ノ動議ノ如クニ三讀會ヲ省略シテ全部可決確定シタルコトヲ宣告致シマス、仍テ第十二ノ久保通猷君提出ノ案ハ自然消滅ニ歸シマシタ、別ニ決ヲ採リマセヌ
○川原茂輔君 序ニ公報ノ二十一號ノ第二十、産業獎勵基金特別會計法案ト云フ日程ヲ追加シテ、本日討議ニ付セラレシコトヲ希望シマス

○議長(大岡育造君) 産業獎勵基金特別會計法案ノ討論ヲ此場合始メルコトニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ第一讀會ノ開キマス
〔設置ス
第一條 產業獎勵基金特別會計法案
第二條 產業獎勵基金ノ元資ニ充ツル爲一般會計ヨリ四千六百萬圓ヲ繰入
第三條 產業獎勵基金ハ地方產業獎勵ニ要スル經費ノ財源ニ充ツ但シ元資金ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス
第四條 產業獎勵基金ハ大藏省預金部ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第五條 産業獎勵基金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ

第六條 政府ハ毎年産業獎勵基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附 則

本法ハ大正三年度ヨリ之ヲ施行ス
○議長(大岡育造君) 井上角五郎君

(井上角五郎君登壇)

(拍手起立)

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○井上角五郎君 本員ハ産業獎勵基金特別會計法、吾ミガ提出致シマシタル此案ノ大要ヲ説明致シマス(「簡単」ト呼フ者アリ)諸君ハ豫算委員會ニ於キマシテ又本會ニ於テ、二年一度ノ歲計案ヲ論ズルトキニ自ラ此案ノ意味ハ了解セラレテ居ルコトデアラウト思ヒマス、彼ノ特別會計資金ノ返償、其中軍艦水雷艇補充基金ニ關スルトコロノ四千六百七十一萬圓ヲ、吾々が豫算ノ中ヨリ削除致シマシタノハ、斯様ナル有名無實——軍艦水雷艇補充基金ノ如キ其名ハ有レドモ其實無キモノ、タメニ此多額ノ金ヲ積シテ置クヨリハ、寧ロ産業獎勵ノ目的ニ於テ、就中農事ノ改良、耕作ノ方法トカ或開墾灌漑其他農事ヲ改良スベキモノ、又併セテ農家ノ經濟界ヲ改善スベキ彼ノ副業ノ如キモノヲ獎勵シ補助スルタメニ、此ノ如キ金ヲ積シテ置ク方ガ宜カラウト云フ意味ヲ以チマシテ、豫算案カラ削除ヲ致シマシタ、即チ其豫算案ニ於テ削除シタコロノ趣意ヲ今日現實ニスルガタメニ、此法案ヲ提出シタノデアリマス、吾々ハ豫ア人民ノ負擔ヲ輕減スル——人民ノ負擔ヲ輕減スルト云フ此事ニ重ナフ置クト同時ニ、産業振興ノ國家經濟ノタメニ最モ必要ナルコトヲ信シテ居ル者デ、若シ先刻ノ同志會ノ加藤君ノ演説ヲ私ガ藉リルコトが出來ルナラバ、租稅ノ輕減ト云フコト、産業ノ振興ト云フコト、ハ、恰モ一ツノ車ノ中テドチラヲ重ク、ドチラヲ輕クスベキモノデナイト云フコトヲ主義トシテ居ルノが吾々ノ立場デアル、是が即チ議會ニ於ケル他ノ派ノ諸君ト自ラ其擇ヲ異ニスル所アリマス、「何ヲ言フ」「モウ宜カラウ」ト呼フ者アリ)極ク簡單ニ申上ゲマス(「謹聽」ト呼フ者アリ)例ヘ過日營業稅法ノ問題ノ出マシタトキニ、國民黨ヲ代表セラレタトコロノ鈴木梅四郎君ハ如何ニ言ハレタカ、今日ノ我國ノ經濟ハ病的デアル、此病的ヲ救フガタメニハ大削減大減稅ノ外ハナイト言ハレタガ、一言モ此産業振興ノ必要ヲ論セラレナイ、又同志會ヲ代表セラレタ片岡直溫君ハ如何ニ言ハレタ、貿易ハ此ノ如ク輸入超過ニナル、正貨ハ此ノ如ク流出シテ居ル、之ヲ救フニハ第一減稅、第二ハ移民ヲ獎勵スル、第三ニハ即チ外國人ヲ誘テ我國ニ遊ビニ來サスト云フコトガ必要デアル、斯様ニ論ゼラレタガ、遂ニ産業振興ノ問題ニ及ハシカツタ、是ハ即チ我黨ガ主張スルトコロノ方針ハ、自ラ其他ノ諸君ト其擇ヲ異ニシテ居ルト私が言フ所以デアシテ、一言茲ニ添ヘテ説明ヲシテ置カレバナラヌ、尙最後ニ一言ヲ添ヘタノハ、産業獎勵基金ヲ專ラ農事ニ向ケルノハ何故デアルカ、斯様ナル議論が偶、世間ニ於テ聞カレルノデアル、諸君今日海

外貿易ニ對シ、或ハ輸入ヲ防ギ、又輸出品トナラテ居ルトコロノモノハ何デアルカ、多クハ是レ農家ニ關係アルトコロノ産業ノ產物デアル、又此頃諸君ガ知ラル、か如ク大阪ハナカク景氣が好イ、東京ハ景氣が悪イ、ナゼデアル、東北ハ免角農家が困難ヲシテ居ルカラ東京ノ景氣ハ悪イガ、大阪ハ九州中國ノ農家が富裕デアルカラ景氣が好イ、商人其他ノモノハ景氣ノ善惡ハ即チ其近傍ノ農家ノ繁昌スルト否トニ依テ自カラ分レテ居ルト云フコトが明白ナ事實デアルナラバ、此産業獎勵ハ敢テ農家ニ私スルニアラズ、國家重要ノ產物ニシテ全國ノ經濟ニ最モ大ナル影響ヲ持ツトコロノ、其產業ヲ獎勵スルモノデアルト云フコトヲ御了解セラレテ、願クハ御賛成アランコトヲ希望致シマス、是ダケ説明致シテ置キマス(拍手起立)

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 早速整爾君

○早速整爾君 提案者ニ質問ガアリマス、此産業獎勵ト云フ意味ニ付テ唯今御説明ニナリマシタル其名曰ハ、頗ル美シイト思フノデスガ、唯今ノ御説明ニ付テ更ニ私ハ提案者ノ意見ヲ今少シ詳シク伺テ見タイノハ、此第三條ニ掲ゲテアリマスルトコロノ地方産業獎勵ト云フ意味ヲ、今少シ精確ニ伺ヒタインデアル、主トシテ農業ト云フコトヲ述ベラレタノデスガ、農業ノ獎勵ト云フコトニ付テ、尙ホ具體的ノ御話ヲ願ハヌト此案ノ根本ニ於テ私共疑ヲ容レナケレバナラヌコトガアル……

○井上角五郎君 ソレハ委員會テ詳シク申上ゲルヤウニ致シマス

○早速整爾君 提案者ガ御答ガナケレバ御尋スルコトハ止メマセウ

○川原茂輔君 本案ハ議長指名十八名ノ特別委員ニ付セラレントコトヲ希望致シマス

(「賛成々々」ノ聲起立)

○議長(大岡育造君) 川原君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ガナケレバ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス——是デ日程ヲ變更シタル議案ハ總テ議了致シマシテ、質問ニ戻ル皆アリマス、(「何ヲ言フ」「モウ宜カラウ」ト呼フ者アリ)第一アリマス——小泉又次郎君

○小泉又次郎君 延期致シマス

午後六時十五分散會

衆議院議事速記録第十四號正誤

頁	段	行	誤	正	頁	段	行	誤	正
二六〇	上	二三	繼續	繫屬	二五六	上	一一	アルノミナラ	タメノミナラ
二六一	下	二七	小川君	小河君	二五六	上	一一	ズ	
二六二	上	六	此帝國ノ	事帝國ノ	二五六	上	二五	秘祕會	秘密會
二六六	上	二〇	名譽テ	名譽ノ					